

A solid red vertical bar on the left side of the page.

# 四半期フィナンシャルレポート

## 2021年度第1四半期

<b>財務ハイライト</b>	3
財務結果の抜粋	3
地域別売上収益	4
疾患領域別および製品別の売上収益	5
<b>直近の動向</b>	7
事業開発	7
パイプラインおよび研究開発活動	7
<b>業績、財政状態およびキャッシュ・フローの分析</b>	12
当期（2021年4－6月期）における業績の概要	12
当期（2021年4－6月期）における実質的な成長の概要	16
財政状態に関する説明	18
キャッシュ・フロー	19
連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	20
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大による影響と当社の取り組み	22
<b>要約四半期連結財務諸表</b>	23
（1）要約四半期連結損益計算書	23
（2）要約四半期連結包括利益計算書	24
（3）要約四半期連結財政状態計算書	25
（4）要約四半期連結持分変動計算書	27
（5）要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	29
（6）その他情報	31
<b>補足情報</b>	32
1. パイプラインの状況	33
開発の状況	33
最近のステージアップ品目	38
開発中止品目	39
主な共同研究開発活動	40
2. 補足財務情報	45
• 地域別売上収益	45
◦ 累計	45
◦ 四半期	46
• 主要製品別売上高（財務報告ベース 対前年同期比）	47
◦ 累計	47
• 主要製品別売上高（財務報告ベースおよび実質ベース成長率）	49
• 主要品目見込	51
• 為替レート	53
• 資本的支出、減価償却費及び償却費、減損損失	54
3. 調整表	55
• 2021年度第1四半期 財務ベース売上収益からCore売上収益/実質的な売上収益への調整表	55
• 2021年度第1四半期 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表	56
• 2020年度第1四半期 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表	57
• フリー・キャッシュ・フロー	58

• <a href="#">2021年度第1四半期 LTM 当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整</a> .....	<a href="#">59</a>
• <a href="#">純有利子負債/調整後EBITDA</a> .....	<a href="#">60</a>
• <a href="#">2021年度予測 - 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表</a> .....	<a href="#">62</a>
<a href="#">留意事項</a> .....	<a href="#">63</a>

## 財務ハイライト

## 財務結果の抜粋

業績	2020年度 第1四半期	2021年度 第1四半期	対前年同期	
	(単位：百万円、%以外)			
売上収益	801,850	949,603	147,753	18.4 %
営業利益	167,285	248,552	81,267	48.6 %
税引前四半期利益	130,291	222,978	92,687	71.1 %
四半期利益	82,519	137,726	55,207	66.9 %
親会社の所有者に帰属する四半期利益	82,511	137,684	55,173	66.9 %
1株当たり四半期利益 (円)				
基本的1株当たり四半期利益	52.93	87.96	35.03	66.2 %
希薄化後1株当たり四半期利益	52.69	87.45	34.76	66.0 %

## 国際会計基準に準拠しない財務指標

業績	2020年度 第1四半期	2021年度 第1四半期	対前年同期	
	(単位：億円、%以外)			
<b>実質的な業績</b>				
売上収益の成長	+ 0.9 %	+ 3.8%		
Core営業利益率	32.4 %	30.5 %		
Core営業利益	2,809	2,489	△320	△11.4 %
Core EPS (円)	122	113	△9	△7.4 %
フリー・キャッシュ・フロー	1,463	1,299	△164	△11.2 %

## レバレッジ

	2020年度末	2021年度 第1四半期末
	2021年 3月31日	2021年 6月30日
(単位：億円、倍率以外)		
純有利子負債	△34,294	△35,376
調整後EBITDA	10,835	10,571
純有利子負債/調整後EBITDA倍率	3.2 x	3.3 x

当社は、「国際会計基準 (IFRS) に準拠した業績分析」に加え、付加的な情報として「IFRSに準拠しない財務指標」を提供しております。IFRSに準拠しない財務指標の調整表につきましては、「補足情報— 3. 調整表」をご参照ください。

## 連結キャッシュ・フロー

	2020年度 第1四半期	2021年度 第1四半期	対前年同期	
	(単位：百万円、%以外)			
営業活動によるキャッシュ・フロー	145,861	166,858	20,997	14.4 %
投資活動によるキャッシュ・フロー	662	△70,445	△71,107	— %
財務活動によるキャッシュ・フロー	△192,765	△411,038	△218,273	113.2 %

## 連結財政状態

	2020年度末	2021年度		対前年度末
		第1四半期末		
		(単位：億円、%以外)		
非流動資産	10,199,400	10,180,777	△18,623	△0.2 %
流動資産	2,712,893	2,476,458	△236,435	△8.7 %
<b>資産合計</b>	<b>12,912,293</b>	<b>12,657,234</b>	<b>△255,059</b>	<b>△2.0 %</b>
非流動負債	5,961,940	5,711,809	△250,131	△4.2 %
流動負債	1,773,176	1,706,782	△66,394	△3.7 %
<b>負債合計</b>	<b>7,735,116</b>	<b>7,418,591</b>	<b>△316,525</b>	<b>△4.1 %</b>
<b>資本合計</b>	<b>5,177,177</b>	<b>5,238,643</b>	<b>61,466</b>	<b>1.2 %</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>12,912,293</b>	<b>12,657,234</b>	<b>△255,059</b>	<b>△2.0 %</b>

## 業績予想および重要な財務指標（マネジメンタガイダンス）

業績予想*				
(単位：億円)	2020年度	2021年度	対前年度	
<b>財務ベース</b>				
売上収益	31,978	33,700	1,722	5.4%
営業利益	5,093	4,880	△213	△4.2%
税引前当期利益	3,662	3,520	△142	△3.9%
親会社の所有者に帰属する当期利益	3,760	2,500	△1,260	△33.5%
1株当たり当期利益（円）	240.72	159.91	△80.81	△33.6%
<b>国際会計基準に準拠しない財務指標</b>				
Core営業利益	9,679	9,300	△379	△3.9%
Core EPS（円）	420	394	△26	△6.2%
フリー・キャッシュ・フロー	12,378	6,000-7,000		
<b>配当金（円）</b>	<b>180</b>	<b>180</b>	<b>—</b>	<b>—</b>

\*詳細は「業績、財政状態およびキャッシュ・フローの分析—[連結業績予想などの将来予測情報に関する説明](#)」をご参照ください。

## 重要な財務指標（マネジメンタガイダンス）\*

(単位：率)

	2021年度
実質的な売上収益の成長	一桁台半ば
実質的なCore営業利益の成長	一桁台半ば
実質的なCore営業利益率	約30%
実質的なCore EPSの成長	一桁台半ば

\*「実質的な成長」は、2020年度に売却された資産および公表済みかつ2021年度中に取引が完了予定である売却を調整し、一定の為替レートを適用しております。「実質的な成長」の定義は、「業績、財政状態およびキャッシュ・フローの分析—[当期（2021年4-6月期）における実質的な成長の概要](#)」をご参照ください。

## 地域別売上収益

(単位：百万円、%以外)

								合計
	日本	米国	欧州および カナダ	アジア (日本を除く)	中南米	ロシア/ CIS	その他	
2020年度 第1四半期	144,045	402,606	157,559	36,879	30,774	13,044	16,943	801,850
2021年度 第1四半期	258,963	412,220	178,742	40,292	30,059	12,336	16,991	949,603
対前年同期	114,918	9,614	21,184	3,413	△714	△707	47	147,753
	79.8%	2.4%	13.4%	9.3%	△2.3%	△5.4%	0.3%	18.4%

(注)「その他」には、中東・オセアニア・アフリカが含まれております。売上収益は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

## 疾患領域別および製品別の売上収益

	2020年度 第1四半期	2021年度 第1四半期	対前年同期	
	(単位：百万円、%以外)			
<b>消化器系疾患</b>				
エンティビオ	101,224	125,370	24,146	23.9%
タケキャブ <sup>(1)</sup>	20,214	24,268	4,054	20.1%
GATTEX/REVESTIVE	17,474	18,123	649	3.7%
DEXILANT	13,609	10,788	△2,821	△20.7%
PANTOLOC/CONTROLOC <sup>(2)</sup>	9,177	10,446	1,269	13.8%
リアルダ/MEZAVANT	5,528	6,423	895	16.2%
PENTASA	6,167	4,836	△1,331	△21.6%
AMITIZA	6,267	2,144	△4,123	△65.8%
RESOLOR/MOTEGRITY	2,738	3,200	462	16.9%
ALOFISEL	11	388	377	3556.0%
その他	4,519	4,520	1	0.0%
<b>消化器系疾患合計</b>	<b>186,928</b>	<b>210,505</b>	<b>23,577</b>	<b>12.6%</b>
<b>希少疾患</b>				
希少代謝性疾患				
エラブレース	17,637	18,599	962	5.5%
リブレガル	12,193	14,050	1,857	15.2%
ビプリブ	9,343	10,452	1,109	11.9%
NATPARA/NATPAR	734	1,150	416	56.8%
希少代謝性疾患合計	39,907	44,251	4,344	10.9%
希少血液疾患				
アドベイト	33,652	30,663	△2,989	△8.9%
アディノベイト	15,280	15,373	93	0.6%
ファイバ	12,859	11,402	△1,457	△11.3%
RECOMBINATE	3,721	3,688	△33	△0.9%
HEMOFIL/IMMUNATE /IMMUNINE	4,430	3,294	△1,136	△25.6%
他のPDT製品	873	863	△10	△1.1%
その他	5,940	6,916	976	16.4%
希少血液疾患合計	76,755	72,199	△4,556	△5.9%
遺伝性血管性浮腫				
TAKHZYRO	23,245	25,469	2,224	9.6%
フィラジル	8,095	6,873	△1,222	△15.1%
CINRYZE	5,922	5,585	△337	△5.7%
KALBITOR	1,060	1,090	30	2.8%
遺伝性血管性浮腫合計	38,321	39,017	696	1.8%
<b>希少疾患合計</b>	<b>154,983</b>	<b>155,467</b>	<b>484</b>	<b>0.3%</b>
<b>血漿分画製剤（免疫疾患）</b>				
免疫グロブリン	85,106	81,608	△3,498	△4.1%
アルブミン	12,979	17,759	4,780	36.8%
その他	7,179	7,831	652	9.1%
<b>血漿分画製剤（免疫疾患）合計</b>	<b>105,264</b>	<b>107,197</b>	<b>1,933</b>	<b>1.8%</b>
<b>オンコロジー</b>				
ベルケイド	24,181	30,129	5,948	24.6%
リユープリン	27,400	26,213	△1,187	△4.3%
ニンラーロ	22,931	24,370	1,439	6.3%
アドセトリス	15,090	17,228	2,138	14.2%
アイクルシグ	9,233	10,369	1,136	12.3%
ベクティビックス	6,177	6,185	8	0.1%
アルンプリグ	2,017	3,113	1,096	54.4%
その他	944	3,775	2,831	300.0%
<b>オンコロジー合計</b>	<b>107,973</b>	<b>121,382</b>	<b>13,409</b>	<b>12.4%</b>

ニューロサイエンス（神経精神疾患）				
バイバンス	66,009	79,212	13,203	20.0%
トリンテリックス	16,880	17,868	988	5.9%
インチュニブ	5,649	3,250	△2,399	△42.5%
ADDERALL XR	5,257	3,949	△1,308	△24.9%
ロゼレム	3,021	3,228	207	6.9%
その他	10,041	5,905	△4,136	△41.2%
<b>ニューロサイエンス（神経精神疾患）合計</b>	<b>106,857</b>	<b>113,411</b>	<b>6,554</b>	<b>6.1%</b>
その他領域				
アジルバ <sup>(1)</sup>	20,855	22,646	1,791	8.6%
ロトリガ	8,065	7,826	△239	△3.0%
アイファガン	3,971	4,569	598	15.0%
ホスレノール	3,210	3,363	153	4.7%
ACTOVEGIN	1,726	3,230	1,504	87.2%
その他 <sup>(3)</sup>	102,019	200,007	97,988	96.0%
<b>その他領域合計</b>	<b>139,846</b>	<b>241,641</b>	<b>101,795</b>	<b>72.8%</b>
<b>疾患領域別および製品別の売上収益合計</b>	<b>801,850</b>	<b>949,603</b>	<b>147,753</b>	<b>18.4%</b>

<sup>(1)</sup> 合剤、パック製剤を含む

<sup>(2)</sup> 一般名：pantoprazole

<sup>(3)</sup> 2020年度第1四半期には、2021年3月31日に売却した武田コンシューマーヘルスケア株式会社の売上高が含まれております。2021年度第1四半期には、売上収益として計上された日本における糖尿病治療薬4剤（ネシーナ錠、リオベル配合錠、イニシク配合錠、ザファテック錠）の帝人フーマ株式会社への譲渡価額133,043百万円が含まれております。

## 直近の動向

### 事業開発

2021年度第1四半期および最新の決算発表日（2021年7月30日）までの期間において、当社グループは2021～2023年度に純有利子負債/調整後EBITDA倍率を「2倍（2倍台前半）」にするというレバレッジ低下目標達成に向けて、幾つかの非中核事業・資産を売却しました。当期間における主な売却は以下となります。

- 2021年4月、当社グループは、日本における当社非中核資産である一部の製品を、総額1,330億円で、帝人ファーマ株式会社に資産譲渡しました。

### パイプラインおよび研究開発活動

当第1四半期の研究開発費の総額は1,225億円であります。

当社の研究開発は、サイエンスにより、患者さんの人生を根本的に変えるような非常に革新性が高い医薬品を創製することに注力しています。当社は、「革新的なバイオ医薬品」、「血漿分画製剤」および「ワクチン」の3つの分野において研究開発活動を実施しています。革新的なバイオ医薬品に対する研究開発は、当社の研究開発投資の中で最も高い比率を占めています。革新的なバイオ医薬品における重点疾患領域（オンコロジー、希少遺伝子疾患および血液疾患、ニューロサイエンス（神経精神疾患）、消化器系疾患）には未だ有効な治療法が確立されていない疾患に対する高い医療ニーズ（アンメットメディカルニーズ）が存在し、当社はベストインクラスあるいはファーストインクラスとなりうる画期的な新規候補物質を創出してまいりました。これまでの数年間、最近ではShire社の買収によってさらに強化されましたが、当社では新たな研究開発能力、さらには次世代プラットフォームに対して社内および外部との提携によるネットワークを通じて投資し、細胞療法および遺伝子治療の領域の強化を図ってまいりました。

当社の2021年4月以降の主要な研究開発活動の進捗は、以下のとおりです。

#### 研究開発パイプライン

##### オンコロジー

世界中のがん患者さんに革新的な新薬をお届けするために努力し、患者さんの生活を改善するという情熱をもって、画期的なイノベーションの探求に取り組んでいます。本疾患領域では、（1）既発売品である「ニンラーロ」、「アドセトリス」、「アイクルシグ」のライフサイクルマネジメントならびに多発性骨髄腫、急性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群およびその他血液がんのパイプラインへの継続的な研究開発投資を通じた、血液がんにおける基盤的な専門性の構築、（2）既発売品である「アルンブリグ」を含む肺がんを対象とするパイプラインおよび標的を絞った肺がん患者さんを対象とする開発プログラムのさらなる拡充、（3）社外との提携による新規のがん免疫療法標的および次世代基盤技術の追求ならびに革新的な細胞療法の探索、にフォーカスしています。

##### [ニンラーロ 一般名：イキサゾミブ]

- 2021年5月、当社は、「ニンラーロ」について、幹細胞移植歴のない多発性骨髄腫に対する初回治療後の維持療法の治療薬として、厚生労働省より多発性骨髄腫における維持療法の効能又は効果を追加する製造販売承認事項一部変更承認を取得したことを公表しました。今回の承認は、主に、ランダム化プラセボ対照二重盲検多施設共同国際臨床第3相試験である「TOURMALINE-MM4試験」の結果に基づくものです。本試験では、幹細胞移植歴のない成人の多発性骨髄腫患者を対象に無増悪生存期間（PFS）を主要評価項目として、本剤による維持療法がPFSを統計学的に有意に改善することが確認されました。ニンラーロの維持療法における安全性プロファイルは、単剤療法における既知の安全性プロファイルと同様であり、「TOURMALINE-MM4試験」で新たな懸念は確認されませんでした。

##### [アイクルシグ 一般名：ポナチニブ]

- 2021年6月、当社は、「アイクルシグ」について、バーチャルで開催される第57回米国臨床腫瘍学会（ASCO）年次総会および第26回欧州血液学会（EHA）年次総会のオーラルセッションにおいて、臨床第2相試験「OPTIC（Optimizing Ponatinib Treatment In CML）」の主要解析データを発表しました。変異の有無にかかわらず治療抵抗性例の患者群での治療を評価する「OPTIC試験」は主要評価項目を達成しました。慢性期の慢性骨髄性白血病（CP-CML）患者において、「アイクルシグ」1日45mgを開始用量とし、BCR-ABL1<sup>IS</sup> 1%以下達成時に15mgに減量するレジメンにより、同剤の最適なベネフィット・リスクプロファイルが示されました。本試験により、本剤の安全性プロファイルは動脈閉塞イベント（AOE）を含め臨床的に管理可能であることが示唆されました。



## [アルンプリグ 一般名：プリグチニブ]

- 2021年6月、当社は、「アルンプリグ」について国内でALK融合タンパクキット「ベンタナ OptiView ALK(D5F3)」（以下、「ベンタナALK」）によりALK融合遺伝子陽性（ALK陽性）が確認された非小細胞肺癌（NSCLC）患者の一次治療に使用が可能となったことを公表しました。「ベンタナALK」は、ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社が製造販売する免疫組織化学染色法（IHC法）を測定原理とした体外診断用医薬品で、「アルンプリグ」に対するコンパニオン診断薬として承認されました。蛍光*in situ*ハイブリダイゼーション(FISH)法に加え、「ベンタナALK」がコンパニオン診断薬として追加承認されたことで、より幅広く、ALK陽性NSCLC患者に対して「アルンプリグ」による治療機会を提供できることとなりました。

## [開発コード：TAK-788 一般名：mobocertinib]

- 2021年4月、当社は、プラチナ製剤ベースの化学療法による治療歴を有し、米国食品医薬品局（FDA）で承認された検査で検出された上皮成長因子受容体（EGFR）エクソン20挿入変異を伴う転移性非小細胞肺癌の成人患者に対する治療薬「mobocertinib」の新薬承認申請（NDA）を、FDAが優先審査に指定したことを公表しました。「mobocertinib」は、EGFRエクソン20挿入変異を選択的に標的とするよう特異的に設計された初めての経口治療薬です。今回の新薬承認申請は、主に転移性非小細胞肺癌患者を対象に、経口投与された「mobocertinib」の安全性および有効性を評価する臨床第1/2相試験の結果に基づくものです。この申請はFDAの迅速承認制度により行われました。なお、審査終了目標日（PDUFA date）は2021年10月26日です。
- 2021年5月、当社は、「mobocertinib」の安全性および有効性を評価する臨床第1/2相試験から、プラチナ製剤ベースの化学療法の治療歴を有する上皮成長因子受容体（EGFR）エクソン20挿入変異陽性を伴う転移性非小細胞肺癌患者を対象とした最新データを公表しました。試験結果から、「mobocertinib」は1年間の追跡調査後も臨床的に意義のある効果を持続することが示され、バーチャルで開催される第57回米国臨床腫瘍学会（ASCO）年次総会で発表されました。本試験の結果、全生存期間（OS）の中央値は24ヶ月、フォローアップ期間の中央値は14ヶ月、多様なEGFRエクソン20挿入変異に対して奏功したことが示されました。その他の主要なデータポイントである客観的奏効率（ORR）、奏功期間（DoR）の中央値および病勢コントロール率（DCR）においては、既報データと一貫していました。また、安全性プロファイルにおいても対応可能なもので、既報データと一貫していました。
- 2021年7月、当社は、中国国家薬品监督管理局(NMPA)の国家食品医薬品监督管理局医薬品審査評価センター（CDE）が、EGFRエクソン20の変異を伴うNSCLCの成人患者を対象とする、クラス-1イノベティブドラッグ「mobocertinib」の新薬承認申請(NDA)を受理し、優先審査に指定したことを公表しました。

希少遺伝子疾患および血液疾患

当社は、既存の治療パラダイムを変えうる、「TAKHZYRO」を含む遺伝性血管性浮腫に注力するとともに、希少血液疾患および希少代謝性疾患において新たなモダリティとプラットフォームを活用し、特定の疾患に対して機能的な治療を提供していくことを目指します。

## [TAKHZYRO 一般名：ラナデルマブ]

- 2021年7月、当社は、「TAKHZYRO」300mgを最長2.5年間、2週間間隔で投与した場合の長期の安全性（主要評価項目）および有効性を評価した、臨床第3相「HELP（遺伝性血管性浮腫の長期抑制）試験の非盲検延長（OLE）試験」で得られた2つの最終解析結果を公表しました。最初の解析では、試験対象集団（n=212）で観察された発作発現回数の平均（最小値、最大値）低下率は、ベースラインと比較して87.4%（-100；852.8）であり、低下率の中央値は97.7%、「TAKHZYRO」の患者への平均投与期間（標準偏差）は29.6ヵ月（8.2）でした。安定期間（投与70日目から投与期間終了時）において、発作発現率はさらに平均92.4%、中央値98.2%まで低下しました。また、追加の解析では、特定の背景および疾患の特徴を有するHAE患者のサブグループにおいて、「TAKHZYRO」は予定されていた132週間の延長投与期間でHAE発作を抑制し、良好な忍容性を示しました。これらのデータは、2021年欧州アレルギー臨床免疫学会議（EAACI：European Academy of Allergy and Clinical Immunology）にて発表されました。

## [ボンベンディ 一般名：フォン・ヴィレブランド因子（遺伝子組換え）]

- 2021年6月、当社は、フォン・ヴィレブランド病の成人患者（18歳以上）における出血症状の予防または頻度の低下のための「ボンベンディ」の予防投与について、生物製剤承認事項変更申請（sBLA）が米国食品医薬品局（FDA）に受理されたことを公表しました。なお、審査終了目標日（PDUFA date）は2022年1月28日です。

[開発コード：TAK-620 一般名：maribavir]

- 2021年5月、当社は、固形臓器移植（SOT）または造血幹細胞移植（HCT）の両移植後の難治性/抵抗性（無しも含む）（R/R）サイトメガロウイルス（CMV）感染の治療薬である「maribavir」について、新薬承認申請（NDA）が米国食品医薬品局（FDA）に受理され、優先審査指定を受けたことを公表しました。この申請はグローバル臨床第3相試験である「TAK-620-303（SOLSTICE）試験」に基づいています。「maribavir」は、FDAから、臨床的に重篤なCMV血症およびCMV感染症リスクの高い患者の治療薬として希少疾病用医薬品指定を受けています。またFDAは、CMV感染およびCMV感染症を有し、既存の治療に抵抗性を有するまたは難治性の移植患者への治療薬として、「maribavir」のBreakthrough Therapy指定を行っています。
- 2021年6月、当社は、「maribavir」について、臨床第3相試験である「TAK-620-303（SOLSTICE）試験」の固形臓器移植（SOT）患者に関する新たなサブグループ解析結果を、オンラインで開催された2021年米国移植学会議（American Transplant Congress：ATC）において発表しました。ベースラインで難治性/抵抗性（無しも含む）（R/R）サイトメガロウイルス（CMV）感染のSOT患者において、投与8週時（投与期終了時）でCMV血症の消失が達成された割合は、既存の抗ウイルス療法群（治験責任医師が定めた治療法 [IAT] で、「ガンシクロビル」、「バルガンシクロビル」、「ホスカルネット」もしくは「シドフォビル」のいずれか1つまたはその併用）（26.1%、18/69）と比較して、「maribavir」投与群では2倍以上（55.6%、79/142）でした（調整群間差 [95%信頼区間]：30.5% [17.3, 43.6]）。発表された結果は、心臓移植、肺移植および腎移植を受けた患者において「maribavir」投与の一貫した有効性を示しました。

### ニューロサイエンス（神経精神疾患）

当社は、高いアンメット・ニーズが存在する神経疾患および神経筋疾患を対象に、革新的治療法に研究開発投資をフォーカスし、当社の専門知識やパートナーとの提携を生かし、パイプラインを構築しています。疾患の生物学的理解、トランスレーショナルツール、革新的なモダリティの進展により、当社は神経変性疾患のうち患者セグメントが明確に定義されている疾患（例えば、パーキンソン病）への治療可能性に特化した投資とともに、希少神経疾患（例えば、ナルコレプシー、筋萎縮性側索硬化症、ハンチントン病、その他の運動失調症）に主にフォーカスしています。

[開発コード：TAK-994]

- 2021年7月、当社は、臨床第2相試験を実施中の経口投与可能なオレキシン2型受容体選択的作動薬である「TAK-994」につき、米国食品医薬品局（FDA）よりブレイクスルーセラピーの指定を受けたことを公表しました。現在「TAK-994」は、睡眠-覚醒サイクルが変化する慢性神経疾患であるナルコレプシータイプ1（NT1）の患者における日中の過度の眠気（EDS）の治療薬として臨床第2相試験（「TAK-994-1501試験」）を実施中です。「TAK-994」のブレイクスルーセラピー指定は、NT1の患者において開発中の当社の経口オレキシン受容体作動薬が日中の覚醒状態の客観的および主観的評価項目において大幅な改善を示す可能性を示唆した、初期段階の予備的臨床データなどに基づくものです。

### 消化器系疾患

消化器系疾患・肝疾患の患者さんに革新的で人生を変えうる治療法をお届けすることにフォーカスしています。「エンティピオ」および「ALOFISEL」といった炎症性腸疾患におけるフランチャイズのポテンシャルを最大化するとともに、「GATTEX/レベスティブ」のスペシャリティ消化器系疾患領域におけるポジショニングを拡大させ、社外との提携を通じて消化管運動関連疾患、セリアック病、厳選した肝疾患における機会を探索し、パイプラインの構築を進めています。

[GATTEX/レベスティブ 一般名：テデュグルチド]

- 2021年6月、当社は、短腸症候群の治療剤である「レベスティブ皮下注用3.8mg」（以下、「レベスティブ」）について、厚生労働省より製造販売承認を取得したことを公表しました。今回の承認は、海外で行われた複数の試験、ならびに国内で小児および成人を対象として実施された臨床第3相試験（「SHP633-302」、「SHP633-305」、「SHP633-306」および「SHP633-307」）等の結果に基づくものです。

### 血漿分画製剤

当社は、血漿分画製剤（PDT）に特化したPDTビジネスユニットを設立し、血漿の収集から製造および商用化まで、エンド・ツー・エンドのビジネスを運営しています。本疾患領域では製品のライフサイクル全体にわたってイノベーションを推進することにより、希少および複雑な疾患に対する血漿分画製剤による治療の価値を最大化させます。血漿分画製剤に特化した研究開発組

織は、新たな治療ターゲットの特定、および、現有する製品の製造効率の最適化という役割を担います。PDTでは、世界中で、様々な希少疾患や、生命を脅かす、慢性および遺伝性疾患の患者さんに有効な治療を行う上で不可欠な治療薬を開発することに焦点を絞ります。

[開発コード：CoVIg-19（旧 TAK-888） 一般名：抗SARS-CoV-2ポリクローナル高度免疫グロブリン製剤]

- 2021年4月、「CoVIg-19 Plasma Alliance」は、米国国立衛生研究所（NIH）の一部である米国国立アレルギー・感染症研究所（NIAID）が出資し実施した臨床第3相試験「Inpatient Treatment with Anti-Coronavirus Immunoglobulin (ITAC)」において、評価項目を達成しなかったことを公表しました。臨床試験において安全性の重大な懸念は認められませんでした。本試験は、重篤な合併症のリスクのある成人のCOVID-19入院患者に対して、抗コロナウイルス高度免疫グロブリン静注製剤（H-Ig）を、「レムデシビル」を含む標準治療に追加投与した際の、疾患進行のリスク低減を評価することを目的としていました。現在も解析は継続中であり、NIAIDおよびINSIGHT Networkは試験の全結果を近く発表する予定です。「ITAC試験」の結果を受けて、「CoVIg-19アライアンス」の取り組みは終了しました。

## ワクチン

ワクチンでは、イノベーションを活用し、デング熱、新型コロナウイルス感染（COVID-19）、ジカウイルス感染、ノロウイルス感染など、世界で最も困難な感染症に取り組んでいます。当社パイプラインの拡充およびプログラムの開発に対する支援を得るために、政府機関（日本、米国）や主要な世界的機関とのパートナーシップを締結しています。これらのパートナーシップは、当社のプログラムを実行し、それらのポテンシャルを最大限に引き出すための重要な能力を構築するために必要不可欠です。

[COVID-19ワクチンモデルナ筋注（開発コード：mRNA-1273、日本での開発コード：TAK-919）]

- 2021年5月、当社は日本における「TAK-919」の安全性および免疫原性を評価する国内臨床第1/2相試験の結果を医薬品医療機器総合機構（PMDA）に提出したことを公表しました。当社はModerna社ならびに厚生労働省の三者間の合意により、「TAK-919」の5,000万回接種分を輸入し供給します。本試験の結果では、28日間の間隔で「TAK-919」0.5 mLを2回接種した被験者の100%に、結合抗体と中和抗体の上昇が本剤の2回目接種28日後に確認できたことが示されました。重大な安全性の懸念は報告されず、忍容性は概ね良好でした。当社は本試験の結果を、2021年3月に提出した新薬承認申請の一部として、医薬品医療機器総合機構（PMDA）に提出しました。申請資料には、Moderna社が米国において実施中の臨床第3相試験（COVE試験）の安全性と有効性の結果も含まれています。
- 2021年5月、「COVID-19ワクチンモデルナ筋注（TAK-919）」について、厚生労働省より医薬品医療機器等法第14条の3に基づく特例承認を取得したことを公表しました。本承認は、米国で実施されたModerna社の臨床第3相試験（COVE試験）の結果と同様の免疫反応が得られた、日本で実施した「COVID-19ワクチンモデルナ筋注」の安全性および免疫原性を評価する臨床第1/2相試験の結果に基づいています。当社は、日本国内において「COVID-19ワクチンモデルナ筋注」の供給を開始しました。
- 2021年7月、当社は、「COVID-19ワクチンモデルナ筋注」を、追加で早ければ2022年初頭から5,000万回接種分を輸入し、日本において供給することについてModerna社ならびに厚生労働省と合意したことを公表しました。本合意には、Moderna社による開発が成功し、厚生労働省より製造販売の承認が得られた場合には、新型コロナウイルスの変異株に対応するワクチンや追加接種に用いるワクチンを日本国内へ供給する可能性も含まれています。当社は、今回の追加5,000万回接種分と2020年10月に公表済みの5,000万回接種分とを合わせて計1億回接種分を輸入、供給します。
- 2021年7月、当社は、「COVID-19ワクチンモデルナ筋注」の日本における添付文書が改訂され、接種対象年齢が12歳以上に拡大されたことを公表しました。今回の改訂は、Moderna社が米国で実施した12歳以上17歳以下の3,732人を対象とした臨床第2/3相試験結果に基づき行われました。本試験では、主要評価項目として設定したワクチン2回目接種28日後の血清中和抗体価及び中和抗体価応答率において、本試験対象の青少年（12歳以上17歳以下）について、ワクチンの発症予防効果が確認された海外第3相試験（「mRNA-1273-P301試験」）の若年成人（18歳以上25歳以下）に対する非劣性が示されました。また、副次評価項目として設定したワクチン2回目接種後2週間以降のワクチン有効率においても高い発症予防効果を有することを示唆する結果が得られました。安全性については、18歳以上の臨床試験の結果と同様に、重大な安全性の懸念は報告されませんでした。



[開発コード：TAK-003 一般名：デング熱ワクチン]

- 2021年5月、当社は、「TAK-003」が現在進行中のグローバル臨床第3相試験「TIDES試験（Tetravalent Immunization against Dengue Efficacy Study）」のワクチン接種後3年間にわたる長期評価において、本ワクチンのデング熱感染およびデング熱感染による入院に対して持続的な予防効果（被験者のワクチン接種前のデング熱感染歴の有無を問わない）を示し、懸念されるような安全性リスクも認められなかったことを公表しました。「TIDES試験」には、デング熱流行国であるラテンアメリカやアジア地域において2万人以上の小児・若年層（4歳から16歳）の健常被験者が登録されています。「TIDES試験」の36ヵ月間にわたる追跡調査の安全性および有効性データは、第17回国際渡航医学会（CISTM: Conference of the International Society of Travel Medicine）で発表されました。「TAK-003」の3年間（2回目接種後36ヵ月）にわたる長期評価では、デングウイルスの各血清型（計4種）に対する「TAK-003」のワクチン有効性は、各血清型で異なっていたものの、この結果は、これまで報告してきた結果と一貫性のあるものでした。また、安全性においても全般的に忍容性が良好で、懸念されるような安全性リスクも認められませんでした。病態の増悪のエビデンスは確認されませんでした。「TIDES試験」の36ヵ月間にわたる追跡調査の安全性および有効性データは、欧州連合（EU）およびデング熱流行国における承認申請資料に含まれており、今後、2021年内に承認申請が予定されている米国を含むその他の国々における申請資料にも含まれる予定です。

#### 将来に向けた研究プラットフォームの構築／研究開発における提携の強化

自社の研究開発機能向上への注力に加え、社外パートナーとの提携も、当社研究開発パイプライン強化のための戦略における重要な要素の一つです。社外提携の拡充と多様化に向けた戦略により、様々な新製品の研究に参画し、当社が大きな研究関連のブレイクスルーを達成する可能性を高めます。

- 2021年7月、当社とペプチドリーム株式会社は、2020年12月に公表済みの両社の共同研究および独占的ライセンスの枠組みを拡大し、慢性神経変性疾患において重要な役割を担う複数の中枢神経系（CNS）ターゲットについてペプチド-薬物複合体（Peptide Drug Conjugate）の創製に向けた取り組みを進めることを公表しました。今回の共同研究の拡大により、神経変性疾患に関連する複数のCNSターゲットに対してTfR1結合ペプチドリガンドを用い、当社がTfR1結合ペプチドと医薬品候補化合物の複合体を作成し、医薬品候補化合物に血液脳関門（BBB）通過能を付与する研究が行うことが可能になります。神経変性疾患に効果的な医薬品の開発で大きな課題となるのが、治療薬物のBBB通過能を高め脳内に送達させる技術です。TfR1結合ペプチド（キャリアペプチド）を各種の治療用化合物に結合させることで、化合物のBBB通過能を高め脳内に取り込まれるため、医薬品としての機能が著しく向上します。このTfR1 BBBシャトルアプローチは、BBBの通過が困難なままである治療法の開発を加速する可能性があります。また、このアプローチは現在治療薬がほとんどないかまたは全く存在しない数多くの神経変性疾患を効果的に治療するために必要とされる、広い脳領域への薬物の生体内分布を可能にする可能性があります。
- 2021年7月、当社とFrazier Healthcare Partnersは、当社のノロウイルスワクチンの開発および販売を行うバイオ医薬品企業HilleVax, Inc.（HilleVax社）設立に関して提携したことを公表しました。当社は、契約一時対価ならびに将来の売上に応じたキャッシュ・ロイヤルティおよびマイルストーンを対価として、HilleVax社へノロウイルスワクチン候補である「HIL-214」（旧開発コード：「TAK-214」）の日本を除く世界における独占的開発および販売の権利を譲渡しました。当社は日本における販売権を保有し、HilleVax社は日本における開発活動をグローバル開発に統合します。ウイルス様粒子技術（VLP）を用いたワクチン候補である「HIL-214」は、4,712例の成人被験者を対象とした無作為割付プラセボ対照臨床第2相後期有効性フィールド試験を完了しています。本試験では、「HIL-214」の良好な忍容性およびノロウイルス感染に起因する中等度から重度の急性胃腸炎に対する予防効果のブルーフ・オブ・コンセプト（proof of concept）が確認されました。本ワクチンについては、これまでに9つの臨床試験が実施されており、4,500例以上の被験者の安全性データおよび2,000例以上の被験者から得られた免疫原性データが集積されています。

## 業績、財政状態およびキャッシュ・フローの分析

## 当期（2021年4－6月期）における業績の概要

当期の連結業績は、以下のとおりとなりました。

	(単位：億円、%以外)			
	前年同期	当期	対前年同期	
売上収益	8,019	9,496	1,478	18.4%
売上原価	△2,381	△2,413	△32	1.3%
販売費及び一般管理費	△2,024	△2,198	△175	8.6%
研究開発費	△1,068	△1,225	△157	14.7%
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	△1,042	△1,028	14	△1.4%
その他の営業収益	637	111	△526	△82.6%
その他の営業費用	△468	△258	210	△44.9%
営業利益	1,673	2,486	813	48.6%
金融収益及び費用（純額）	△272	△252	20	△7.4%
持分法による投資損益	△98	△4	94	△96.3%
税引前四半期利益	1,303	2,230	927	71.1%
法人所得税費用	△478	△853	△375	78.5%
四半期利益	825	1,377	552	66.9%

## 〔売上収益〕

売上収益は、前年同期から1,478億円増収（+18.4%）の9,496億円となりました。前年同期の実勢為替レートを当期に適用することにより算出した為替影響を除くと、売上収益は14.3%の増収となります。2021年4月、当社は、日本における糖尿病治療剤ポートフォリオの1,330億円での帝人ファーマ株式会社への譲渡を完了し、これを売上収益に計上しました。当該譲渡価額は、売上収益の増加のうち、16.6パーセントポイント（以下、「pp」）を占めます。なお、当該譲渡価額を除くと、当期の売上収益は1.8%の増収となります。

当社の主要な疾患領域（消化器系疾患、希少疾患、血漿分画製剤（免疫疾患）、オンコロジー、およびニューロサイエンス（神経精神疾患））はそれぞれ全社の売上収益の増収に貢献しました。しかしながら、希少疾患と血漿分画製剤（免疫疾患）における一部の製品は、競争の激化や後発品の浸透、出荷タイミングによる影響を受け、円安によるプラス影響を除くと両領域は減収となります。当期の売上収益は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のグローバルな流行拡大に大きく影響を受けることがありませんでした。

当社の主要な疾患領域以外の売上収益は、主に日本における糖尿病治療剤ポートフォリオの譲渡価額1,330億円が事業等の売却影響を吸収し、1,018億円増収（+72.8%）の2,416億円となりました。

各疾患領域における売上収益の前年同期からの増減は、主に以下の製品によるものです。

## ・消化器系疾患

消化器系疾患領域の売上収益は、前年同期から236億円増収（+12.6%）の2,105億円となりました。当社のトップ製品である潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「エンティビオ」（国内製品名：「エンタイビオ」）の売上が伸長し、前年同期から241億円増収（+23.9%）の1,254億円となり、売上成長を牽引しました。本剤は需要の増加により、米国内の売上が、前年同期から122億円増収（+17.1%）の837億円となり、欧州およびカナダにおける売上は、前年同期から86億円増収（+35.6%）の327億円となりました。成長新興国においては、主にブラジルおよび中国における売上が伸長しました。酸関連疾患治療剤「タケキャブ」も、逆流性食道炎や低用量アスピリン投与時における胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制等の効能を中心として、日本において新規処方拡大し、売上は41億円増収（+20.1%）の243億円となりました。慢性便秘症治療剤「AMITIZA」は、2021年1月の米国における後発品参入により、売上は41億円減収（△65.8%）の21億円となりました。

## ・希少疾患

希少疾患領域の売上収益は、前年同期から5億円微増（+0.3%）の1,555億円となりました。

希少代謝性疾患領域の売上収益は、43億円増収（+10.9%）の443億円となりました。酵素補充療法のアブリー病治療剤「リブレガル」、ゴーシェ病治療剤「ビプリブ」およびハンター症候群治療剤「エラブレース」の売上は、需要の増加と円安の影響により増収となりました。

希少血液疾患領域の売上収益は、46億円減収（△5.9%）の722億円となりました。「アドベイト」は30億円減収（△8.9%）の307億円となりました。「アディノベイト」は、円安の影響もあり、1億円増収（+0.6%）の154億円となりました。いずれも、米国の血友病Aのインヒビター非保有市場における競争の激化による影響を受けました。また、「ファイバ」の売上は、15億円減収（△11.3%）の114億円となりました。

遺伝性血管性浮腫領域の売上収益は、7億円増収（+1.8%）の390億円となりました。「TAKHZYRO」は、主に欧州におけるブレフィルドシリンジ製剤を含む上市により、22億円増収（+9.6%）の255億円となりました。「フィラジル」は、主に米国における後発品参入の影響が続き、12億円減収（△15.1%）の69億円となりました。

#### ・血漿分画製剤（免疫疾患）

血漿分画製剤（免疫疾患）領域の売上収益は、前年同期から19億円増収（+1.8%）の1,072億円となりました。免疫グロブリン製剤の売上合計は、35億円減収（△4.1%）の816億円となりました。特に、原発性免疫不全症（PID）と多巣性運動ニューロパチー（MMN）の治療に用いられる静注製剤「GAMMAGARD LIQUID」の売上は、前年度の第4四半期の売上が大きくなった出荷タイミングの影響を主として減少しました。一方、皮下注製剤である「CUVITRU」は引き続き2桁台の増収率となりました。また、主に血液量減少症と低アルブミン血症の治療に用いられる「HUMAN ALBUMIN」と「FLEXBUMIN」を含むアルブミン製剤の売上合計は、前年度の下期に影響を与えた「HUMAN ALBUMIN」の中国における一時的な出荷中断が解消されたことにより、前年同期から48億円増収（+36.8%）の178億円となりました。

#### ・オンコロジー

オンコロジー領域の売上収益は、前年同期から134億円増収（+12.4%）の1,214億円となりました。多発性骨髄腫治療剤「ベルケイド」の売上は、前年同期から59億円増収（+24.6%）の301億円となりました。米国外の売上にかかるロイヤルティ収益は、後発品の浸透により前年同期から3億円の減収（△30.8%）となりましたが、米国内の売上は、COVID-19が流行拡大し処方者が点滴や注射よりも経口投与の薬剤を選好したことで売上が低下していた前年同期と比べ、当期は需要の回復があったことから63億円の増収（+27.3%）となりました。多発性骨髄腫治療剤「ニンラー口」の売上は、前年同期から14億円増収（+6.3%）の244億円となりました。「ニンラー口」は服薬の利便性が高い経口投与の製品特性から、医療機関での点滴や注射を必要としないため、COVID-19拡大下において特に前年度の最初の数ヶ月において一時的に需要が増加しました。その後、この傾向は米国では正常化しましたが、他の国々、特に中国において需要が増加しました。また、悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス」の売上は、2020年5月に承認された中国を中心に成長新興国において伸長し、前年同期から21億円増収（+14.2%）の172億円となりました。子宮内膜症・子宮筋腫・閉経前乳がん・前立腺がん等の治療に用いられる特許満了製品の「リュープリン」（一般名：「リュープロレリン」）は、主に日本における後発品の浸透および競合品の影響により、前年同期から12億円減収（△4.3%）の262億円となりました。

#### ・ニューロサイエンス（神経精神疾患）

ニューロサイエンス（神経精神疾患）領域の売上収益は、前年同期から66億円増収（+6.1%）の1,134億円となりました。注意欠陥／多動性障害（ADHD）治療剤「バイバンス」（国内製品名：「ビバンセ」）の売上は、前年同期から132億円増収（+20.0%）の792億円となりました。同剤は、COVID-19パンデミックの期間を通じて、特に外出制限期間中の外来患者数および診断数の減少と、服薬の一時的な中断による減収影響を受けました。この傾向は2020年から2021年にかけて変動してきましたが、当期と前年同期を比較すると、処方の増加によるプラス影響がありました。大うつ病（MDD）治療剤「トリンテリックス」の売上は、主に日本での浸透が進んだことにより、前年同期から10億円増収（+5.9%）の179億円となりました。これらの製品の増収は、主に後発品参入による競争の影響を受けたアルツハイマー病治療剤「レミニール」やADHD治療剤「ADDERALL XR」等の他のニューロサイエンス（神経精神疾患）領域の製品の減収によって一部相殺されました。

## 地域別売上収益

(単位:億円、%は売上収益の構成比)

売上収益:	前年同期		当期	
日本 <sup>(注1)</sup>	1,440	18.0%	2,590	27.3%
米国	4,026	50.2%	4,122	43.4%
欧州およびカナダ	1,576	19.6%	1,787	18.8%
アジア（日本を除く）	369	4.6%	403	4.2%
中南米	308	3.8%	301	3.2%
ロシア/CIS	130	1.6%	123	1.3%
その他 <sup>(注2)</sup>	169	2.1%	170	1.8%
合計	8,019	100.0%	9,496	100.0%

(注1) 当期は、日本における糖尿病治療剤ポートフォリオの譲渡価額1,330億円を含みます。

(注2) その他の地域は中東、オセアニアおよびアフリカを含みます。

## 〔売上原価〕

売上原価は、前年同期から32億円増加（+1.3%）の2,413億円となり、売上原価率は25.4%（△4.3pp）となりました。この増加は主に、Shire社買収に伴い計上された棚卸資産の公正価値調整等にかかる非資金性の費用が154億円減少したものの、前年同期と比較し当期において円安の影響を受けたことによります。なお、売上原価率の低下は主に、日本において糖尿病治療剤を帝人ファーマ株式会社に譲渡したことに伴い、譲渡価額1,330億円の売上収益を計上したことによるものです。

## 〔販売費及び一般管理費〕

販売費及び一般管理費は、前年同期から175億円増加（+8.6%）の2,198億円となりました。この増加は主に、当期における円安の為替影響に伴うものです。

## 〔研究開発費〕

研究開発費は、主に新規候補物質へのさらなる投資、および当期における円安の為替影響により、前年同期から157億円（+14.7%）増加の1,225億円となりました。

## 〔製品に係る無形資産償却費及び減損損失〕

製品に係る無形資産償却費及び減損損失は、前年同期から14億円減少（△1.4%）の1,028億円となりました。

## 〔その他の営業収益〕

その他の営業収益は、前年同期から526億円減少（△82.6%）の111億円となりました。この減少は主に、前年同期においてSHP647および関連する権利の売却に関する当社グループの義務を解除する2020年5月の欧州委員会の決定に伴い、当社グループがSHP647に関する臨床試験プログラムを中止する意思決定を行ったことを反映し、これまで計上していた当該プログラムに関連する負債の再見積りを行った結果、602億円の再評価益を計上したことによるものです。

## 〔その他の営業費用〕

その他の営業費用は、前年同期から210億円減少（△44.9%）の258億円となりました。この減少は主に、前年同期において当社グループが譲渡したXIIDRAにかかる条件付対価契約に関連する資産の公正価値の変動により、186億円の損失を計上したこと、またShire社との統合費用の減少に伴い、事業構造再編費用が対前年同期から81億円減少したことによるものです。これらの減少は、承認前在庫にかかる評価損が45億円増加したことにより一部相殺されております。

## 〔営業利益〕

営業利益は、上記の要因を反映し、前年同期から813億円増益（+48.6%）の2,486億円となりました。

## 〔金融損益〕

金融収益と金融費用をあわせた金融損益は252億円の損失となり、前年同期から損失が20億円減少しました。当期の金融損失の減少は主に、これまで持分法適用会社であったMaverick Therapeutics社を2021年4月に買収したことに伴い、投資の再測定に係る利益を計上したことによるものです。この影響は、当社グループが保有するワラントの時価評価に伴うマイナスの影響により一部相殺されております。

〔持分法による投資損益〕

当期の持分法による投資損益は、前年同期の持分法による投資損失から94億円減少の4億円の損失となりました。この減少は主に、武田テバファーマ株式会社で認識された減損損失に対する当社グループ持分相当額を前年同期に計上したことによるものです。なお、前年同期に認識された減損損失は、武田テバファーマ株式会社においてジェネリック医薬品事業の一部および製造拠点の売却を決定したことによる関連資産の回収可能価額の再評価によるものです。

〔法人所得税費用〕

法人所得税費用は、前年同期から375億円増加の853億円となりました。この増加は主に、2014年にShire社がAbbVie社からの買収申し出の取下げに関連して受領した違約金に対するアイルランドでの課税を巡る税務評価から生じた税金および利息の合計と関連する税務便益5億円との純額627億円ならびに税引前四半期利益の増加によるものです。これらの増加は、グループ内の組織再編により当期に認識された税務上の便益および外国子会社合算税制による課税額の減少により一部相殺されております。

〔四半期利益〕

四半期利益は、上記の要因を反映し、前年同期から552億円増益の1,377億円となりました



## 当期（2021年4－6月期）における実質的な成長の概要

### Coreと実質的な成長の定義

当社は、事業の計画策定および業績評価において、「実質的な成長」（Underlying Growth）の概念を採用しております。

「実質的な成長」は、当年度と前年度（四半期もしくは年間）の業績を共通の基準で比較するものであり、マネジメントによる業績評価に使用されています。これら共通の基準で比較される業績は、年間計画レートをを用いた為替レートを一定として、事業等の売却影響およびその他の非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない（非中核）事象による影響を控除し算定されます。当社は、この「実質的な成長」が、事業活動のパフォーマンスを表す共通の基準を提供するため、投資家に有用であると考えています。なお、本指標は、国際会計基準（IFRS）に準拠したものではありません。

当社は、「Underlying Revenue Growth」（実質的な売上収益の成長）、「Underlying Core Operating Profit Growth」（実質的なCore営業利益の成長）および「Underlying Core EPS Growth」（実質的なCore EPSの成長）を重要な財務指標としています。

実質的な売上収益は、為替レートを一定として、財務ベースの売上収益に、報告期間における非定常的な事象に基づく影響および事業等の売却影響を調整して計算します。

実質的なCore営業利益は、為替レートを一定として、Core営業利益（以下に定義）に、報告期間における事業等の売却影響を調整して計算します。

実質的なCore EPSは、為替レートを一定として、純利益から、事業等の売却影響、およびCore EPS（以下に定義）の算出において控除された項目を調整した後、比較年度末の自己株式控除後の発行済株式総数で除して算定します。

Core売上収益は、売上収益から、重要性のある本業に起因しない（非中核）事象による影響を控除して算出します。

Core営業利益は、純利益から、法人所得税費用、持分法にかかる投資損益、金融損益、その他の営業収益およびその他の営業費用、製品に係る無形資産償却費及び減損損失を控除して算出します。その他、非定常的な事象に基づく影響、企業買収に係る会計処理の影響や買収関連費用など、本業に起因しない（非中核）事象による影響を調整します。

Core EPSは、純利益から、Core営業利益の算出において控除された項目と営業利益以下の各科目のうち、重要性のある、非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない（非中核）事象による影響を調整します。これらには、条件付対価に係る公正価値変動（時間的価値の変動を含む）影響などが含まれます。さらに、これらの調整項目に係る税金影響を控除した後、報告期間の自己株式控除後の平均発行済株式総数で除して算定します。

### 実質的な業績

	当期
実質的な売上収益の成長	+3.8%
実質的なCore営業利益の成長	△2.1%
実質的なCore営業利益率	30.5%
実質的なCore EPSの成長	+3.9%

#### 〔実質的な売上収益の成長〕

実質的な売上収益の成長は、前年同期から+3.8%となりました。タケダの14のグローバル製品<sup>(注)</sup>の実質的な売上収益は、「GAMMAGARD LIQUID/KIOVIG」の減収影響があったものの、前年同期から+6.8%成長しました。

(注) タケダの14のグローバル製品

消化器系疾患：エンティビオ、GATTEX/REVESTIVE、ALOFISEL

希少疾患：NATPARA/NATPAR、アディノバイト、TAKHZYRO、エラブレース、ヒプリブ

血漿分画製剤（免疫疾患）：GAMMAGARD LIQUID/KIOVIG、HYQVIA、CUVITRU、HUMAN ALBUMIN/FLEXBUMIN

オンコロジー：ニララーロ、アルンプリグ

疾患領域別の実質的な売上収益の成長 <sup>(注)</sup>	当期
消化器系疾患	+7.9%
希少疾患	△3.4%
希少代謝性疾患	+6.6%
希少血液疾患	△9.4%
遺伝性血管性浮腫	△1.7%
血漿分画製剤（免疫疾患）	△1.8%
オンコロジー	+8.9%
ニューロサイエンス（神経精神疾患）	+2.9%
その他	+9.0%
合計	+3.8%

(注) 実質的な売上収益は、為替レートを一定として、非定期的な事象に基づく影響および事業等の売却影響を調整します。本調整前の疾患領域別の売上収益や主要な製品売上については、「業績、財政状態およびキャッシュ・フローの分析—[当期（2021年4 - 6月期）における業績の概要](#)」をご参照ください。

実質的な売上収益の計算において控除した主な非定期的な事象に基づく影響および事業等の売却影響は次の通りです。

- ・ 2020年11月に売却が完了したアジア太平洋における一部の一般用医薬品および非中核資産に係る前年同期の売上収益を控除して調整しております。
- ・ 2020年12月に売却が完了した主に欧州における一部の非中核資産である医療用医薬品に係る前年同期の売上収益を控除して調整しております。
- ・ 2021年1月に売却が完了した中南米における一部の一般用医薬品および非中核資産に係る前年同期の売上収益を控除して調整しております。
- ・ 2021年1月に売却が完了した「TachoSil」（手術用パッチ剤）の前年同期の売上を控除して調整しております。
- ・ 2021年3月に売却が完了した主に欧州における一部の一般用医薬品および非中核資産に係る前年同期の売上収益を控除して調整しております。
- ・ 2021年3月に売却が完了した従来子会社であった武田コンシューマーヘルスケア株式会社の前年同期の売上収益を控除して調整しております。
- ・ 2021年4月1日に売却が完了した日本における糖尿病治療剤ポートフォリオ（ネシーナ錠、リオベル配合錠、イニシンク配合錠、ザファテック錠）に係る前年同期の売上を控除して調整しております。また、売却完了により計上された非定期的な譲渡価額1,330億円は当期の売上収益から控除して調整しております。
- ・ 売却が公表され、当年度上期中の売却完了を見込んでいた中国における一部の非中核資産である医療用医薬品に係る当期と前年同期の売上収益を控除して調整しております。

〔当期の実質的なCore営業利益の成長〕

当期の実質的なCore営業利益の成長は、研究開発投資の増加を反映し、前年同期から△2.1%となりました。

日本における糖尿病治療剤ポートフォリオの売却など、当社の本業に起因しない（非中核）事象による影響を控除した当期のCore営業利益は2,489億円となりました。

〔当期の実質的なCore営業利益率〕

当期の実質的なCore営業利益率は、30.5%となりました。

〔当期の実質的なCore EPSの成長〕

当期の実質的なCore EPSの成長は、+3.9%となりました。

## 財政状態に関する説明

## 〔資産〕

当第1四半期末における資産合計は、前年度末から2,551億円減少し、12兆6,572億円となりました。現金及び現金同等物が3,113億円減少し、また、無形資産が主に償却により527億円減少しました。これらの減少は、売上債権及びその他の債権の増加442億円および棚卸資産の増加253億円と一部相殺されております。

## 〔負債〕

当第1四半期末における負債合計は、前年度末から3,165億円減少し、7兆4,186億円となりました。社債及び借入金、借入金の返済および社債の償還の結果、前年度末から2,295億円減少の4兆4,059億円<sup>(注)</sup>となりました。さらに、引当金が638億円減少しております。

(注) 当第1四半期末における社債及び借入金の帳簿価額はそれぞれ3兆5,240億円および8,819億円です。なお、社債及び借入金の内訳は以下の通りです。

## 社債：

銘柄 (外貨建発行額)	発行時期	償還期限	帳簿価額
米ドル建無担保普通社債 (1,520百万米ドル)	2015年6月	2022年6月 ～2045年6月	1,679億円
米ドル建無担保普通社債 (5,500百万米ドル)	2016年9月	2023年9月 ～2026年9月	5,788億円
ユーロ建無担保普通社債 (5,250百万ユーロ)	2018年11月	2022年11月 ～2030年11月	6,858億円
米ドル建無担保普通社債 (3,250百万米ドル)	2018年11月	2023年11月 ～2028年11月	3,571億円
ハイブリッド社債 (劣後特約付社債)	2019年6月	2079年6月	4,976億円
米ドル建無担保普通社債 (7,000百万米ドル)	2020年7月	2030年3月 ～2060年7月	7,677億円
ユーロ建無担保普通社債 (3,600百万ユーロ)	2020年7月	2027年7月 ～2040年7月	4,691億円
合計			3兆5,240億円

## 借入金：

名称 (外貨建借入額)	借入時期	返済期限	帳簿価額
シンジケートローン	2016年4月	2023年4月 ～2026年4月	2,000億円
〃	2017年4月	2027年4月	1,135億円
〃 (1,500百万米ドル)	2017年4月	2027年4月	1,654億円
株式会社国際協力銀行 (1,700百万米ドル)	2019年1月	2025年12月	1,878億円
その他のバイラテラルローン	2016年3月 ～2017年4月	2023年3月 ～2026年3月	2,100億円
その他			51億円
合計			8,819億円

当社グループは、2017年7月に発行した米ドル建無担保普通社債の残高200百万米ドルについて、2022年1月18日の償還期日に先立ち、2021年5月17日に繰上償還を実行しました。その後、当社グループは、2018年12月3日に契約締結した株式会社国際協力銀行ローンの残高3,700百万米ドルのうち2,000百万米ドルについて、2025年12月11日の返済期日に先立ち、2021年6月11日に繰上返済を実行しました。

## 〔資本〕

当第1四半期末における資本合計は、前年度末から615億円増加の5兆2,386億円となりました。この増加は、主に円安の影響による為替換算調整勘定の変動によりその他の資本の構成要素が590億円増加したことによるものです。

## キャッシュ・フロー

(単位：億円)

	前年同期 (2020年4 - 6月期)	当期 (2021年4 - 6月期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,459	1,669
投資活動によるキャッシュ・フロー	7	△704
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,928	△4,110
現金及び現金同等物の増減額	△462	△3,146
現金及び現金同等物の期首残高	6,376	9,662
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16	33
現金及び現金同等物の期末残高	5,898	6,549

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期1,459億円から210億円増加の1,669億円となりました。これは非資金項目およびその他の調整項目を調整後の四半期利益が増加したことによるものです。調整項目には、前年同期におけるパイプラインSHP647および関連する権利の売却に関する義務の解除による収益の調整が含まれます。この増加は、引当金の減少および棚卸資産の増加による影響と一部相殺されております。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期7億円から711億円減少の△704億円となりました。これは主に、投資の売却、償還による収入が440億円減少し、事業取得による支出（取得した現金及び現金同等物控除後）が275億円増加したことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期△1,928億円から2,183億円減少の△4,110億円となりました。これは主に、社債の償還及び長期借入金の返済による支出が2,329億円増加したことによるものです。この減少は、短期借入金及びコマーシャル・ペーパーにおける増加影響100億円と一部相殺されております。

## 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年度の通期の業績予想につきましては、当初予想(2021年5月11日の決算発表時)から修正ありません。当社は、2014年にShire社がAbbVie社からの買収申し出の取下げに関連して受領した違約金に対するアイルランドでの課税を巡る税務評価から生じた税金および利息の合計と関連する税務便益5億円との純額627億円を当期(4-6月)に引当計上しましたが、2021年度の通期の業績予想は、本件とその他の要因も含め考慮し、適切な時期に見直してまいります。

## 2021年度の業績予想

	2020年度	2021年度	対前年度	
売上収益	3兆1,978億円	3兆3,700億円	+1,722億円	+5.4%
営業利益	5,093億円	4,880億円	△213億円	△4.2%
税引前当期利益	3,662億円	3,520億円	△142億円	△3.9%
当期利益 (親会社の所有者帰属分)	3,760億円	2,500億円	△1,260億円	△33.5%
EPS	240円72銭	159円91銭	△80円81銭	△33.6%
Core営業利益	9,679億円	9,300億円	△379億円	△3.9%
Core EPS	420円	394円	△26円	△6.2%

## 2021年度の公表予想の主な前提条件

	2020年度	2021年度
為替レート	1米ドル=106円 1ユーロ=123円 1ロシアルーブル=1.4円 1ブラジルリアル=19.6円 1中国元=15.5円	1米ドル=108円 1ユーロ=131円 1ロシアルーブル=1.4円 1ブラジルリアル=19.9円 1中国元=16.8円
研究開発費	△4,558億円	△5,220億円
製品に係る無形資産償却費	△4,053億円	△4,060億円
うち、Shire社買収に関連する無形資産償却費	△3,195億円	△3,280億円
製品に係る無形資産減損損失	△166億円	△500億円
その他の営業収益	3,180億円	230億円
その他の営業費用	△2,589億円	△1,000億円
日本の糖尿病治療剤の譲渡益	-	1,300億円
その他のCore営業利益の調整	△959億円	△390億円
うち、Shire社買収による棚卸資産の公正価値調整の売上原価処理	△794億円	△311億円
金融収益及び費用(純額)	△1,431億円	△1,300億円
フリー・キャッシュ・フロー (公表済みの事業売却を含む)	12,378億円	6,000~7,000億円
資本的支出(キャッシュ・フロー・ベース)	△2,365億円	△2,100~△2,600億円
有形固定資産の減価償却費及び無形資産償却費 (製品に係る無形資産償却費を除く)	△1,526億円	△1,500億円
調整後EBITDAに対する現金税金の税率 (事業売却を除く)	約16%	10%台半ば

## 重要な財務指標(マネジメントガイダンス\*)

通期のマネジメントガイダンスにつきましては、次の当初ガイダンス(2021年5月11日の決算発表時)から修正ありません。本業に起因しない非定常的な事象であるアイルランドでの課税を巡る税務評価から生じた税務費用は、Core業績から控除して調整され、従って、実質的な業績に対する影響はありません。

	2021年度
実質的な売上収益の成長	一桁台半ば
実質的なCore営業利益の成長	一桁台半ば
実質的なCore営業利益率	約30%
実質的なCore EPSの成長	一桁台半ば

\*「業績、財政状態およびキャッシュ・フローの分析-当期(2021年4-6月期)における実質的な成長の概要」の「Coreと実質的な成長の定義」をご参照ください。

## 2021年度の公表予想およびマネジメントガイダンスのその他の前提条件

- ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な流行拡大に伴う、業績に対する重大な影響は現時点までに生じておりません。当社は、COVID-19は2021年度の当社業績に対して重大な影響を及ぼすことはないと思われ、現時点で入手可能な情報に基づき考えており、当社の2021年度業績予想はこの考え方を反映しています。しかしながら、COVID-19を取り巻く状況は引き続き非常に流動的であり、新規または追加的な流行拡大や、主要市場におけるロックダウンや屋内退避命令の新規の措置や延長、その他政府による対策など、2021年度中の進展によっては、当社製品の需要減少やサプライチェーンに関連する問題の発生、または臨床試験の大幅な遅延など当社事業に深刻な影響を与える可能性があります。このような事態が生じた場合、当社事業や経営成績、財政状態に追加的な影響が及び、また、当社の2021年度業績は予想から大きく乖離する可能性があります。
- ・「ベルケイド」については、2021年度の半ば頃には、505(b)2申請に基づく皮下投与の競合品が少なくとも1つ米国において上市されることを見込んでおります。
- ・米国の「NATPARA」については、2021年度中に再販売することを見込んでおりません。
- ・事業等の売却については、公表済みの案件以外の将来の売却可能性の影響を考慮しておりません。

## 見通しに関する注意事項

本資料に記載の「業績予想」は、現時点で入手可能な情報と前提条件に基づく見込みであり、その実現を約束する趣旨ではございません。実際の業績は事業環境の変化や為替変動など様々な要因により変動し、異なる結果を招きうる不確実性を含んでいます。業績予想を修正すべき重大な要因が発生した場合には、速やかにご報告いたします。



## 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大による影響と当社の取り組み

### ① 当社の経営成績および財政状態に対するCOVID-19影響

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行拡大が起きてから一年以上が経過しましたが、当社は、引き続きあらゆる取り組みを行っており、業界としても様々な支援を行っております。COVID-19に対するワクチンが広く普及しつつありますが、当社は、過去一年間実施してきた既存の当社プロトコルに加えて、各国・地域の公衆衛生関連規制を引き続き遵守し、COVID-19が当社の事業活動に及ぼす潜在的な影響を注視してまいります。

当社は、当社製品の需要動向について注視しておりますが、当社の医薬品は病院での待機手術を要しない重篤な慢性疾患や生命を脅かす恐れのある疾患に対するものが多く、これまでのところ影響は限定的です。グローバルなサプライチェーンにおいては、COVID-19の大流行による製品供給の重大な問題は発生しておらず、また、発生の可能性を予測しておりません。

COVID-19の流行拡大が起きてから、当社は渡航制限や業界関連団体の集会への参加自粛、当社主催の集会の休止等、特定の事業活動を継続して自主的に制限しましたが、各国・地域のガイドラインに従い、ワクチン接種率が高く新規感染者率が低い地域では徐々に制限を緩和しております。さらに、外勤の従業員については、医療従事者との対面の訪問業務を一部再開したものの、現在も大部分はバーチャルで実施しております。対面の訪問業務は、医療従事者の合意の下でのみ、当社が定める厳格な感染予防対策に加え、公衆衛生上求められる対策および医療機関から求められる追加の対策も行った上で実施しております。

新たな臨床試験については、COVID-19の流行拡大の初期に、大部分の臨床試験の開始を一時的に休止しました。同時に、すでに進行中の臨床試験についても、一部の例外を除き、新たな試験実施施設の組み入れならびに新規患者さんの登録を一時的に休止しましたが、これは一時的な措置であり、前年度のうちに大部分の臨床試験は再開しております。

金融市場の動向は注視を続けており、流動性や資金調達に係る問題は現在見込んでおりません。

### ② COVID-19影響軽減のための当社の取り組み

当社は、バリュー（価値観）に基づき、従業員の健康・安全確保、当社医薬品を必要とされている患者さんへの提供、当社従業員が就業・居住するコミュニティでの感染の軽減およびサポートを中心に引き続き取り組んでおります。

COVID-19流行拡大に対する当社の取り組みについて、当期における主なアップデートは次の通りです。

- ・当社は、COVID-19収束後のいわゆるポストコロナの時代におけるバーチャルやハイブリッドな働き方が従業員に及ぼす長期的な影響を考慮に入れることができるように、また、優れた職場環境を実現できるように、新しい働き方について数ヶ月に亘り評価してまいりましたが、一部の職場から、新しい働き方であるハイブリッドモデルの導入を開始しております。本モデルは画一的なものではなく、基本方針やグローバルなガイドラインおよびツールを提供することで、当社のリーダーやマネージャーがCOVID-19収束後の各職場の実情に応じたハイブリッドモデルを決定し導入できるようにしております。
- ・当社は、COVID-19に対処するため様々な取り組みを世界中で行っておりますが、一例としては、二つの提携案件を通じてCOVID-19ワクチンを日本に供給することがあります。一つ目は、Novavax社のCOVID-19ワクチン候補であるNVX-CoV2373（日本での開発コード：TAK-019）の日本における開発、製造、流通に関する提携です。二つ目は、Moderna社のCOVID-19 mRNAワクチン（日本での開発コード：TAK-919）の日本への輸入および供給に関するModerna社および厚生労働省との提携です。2021年5月、当社は日本における「TAK-919」の安全性および免疫原性を評価する国内臨床第1/2相試験の良好な結果を受けて、厚生労働省より製造販売承認を取得し、日本における供給を開始しております。当初、当社はModerna社および厚生労働省と、5,000万回接種分の同ワクチンを日本において供給する三者間契約を締結しましたが、2021年7月には、同ワクチンを追加で早ければ2022年初頭から5,000万回接種分を輸入し、日本において供給する追加の三者間契約を締結したことを公表しました。これにより二つの契約をあわせて、合計1億回接種分を供給することになります。なお、2021年7月の契約には、Moderna社による開発が成功し、厚生労働省より製造販売の承認が得られた場合には、新型コロナウイルスの変異株に対応するワクチンや追加接種に用いるワクチンを日本国内へ供給する可能性も含まれています。

### ③ 2021年度第1四半期実績におけるCOVID-19影響

当期におけるCOVID-19のグローバルな流行拡大に伴う業績への影響は、軽微でありました。COVID-19が流行している期間においては、ニューロサイエンス（神経精神疾患）といった一部の疾患領域において、外出制限期間中に患者さんの医療機関訪問の頻度が減少する等のマイナス影響が見られてきました。これは当社が事業活動を行っている国々においてCOVID-19が急激に流行拡大した前年同期に顕著でした。以降この動向は変動してきており、COVID-19流行前の水準にまで完全に回復していませんが、当社の生命を救う一定数の医薬品はこのような環境下においても耐久力を示し、また、成長を遂げることができています。

## 要約四半期連結財務諸表

## (1) 要約四半期連結損益計算書

	(単位：百万円)		(単位：百万米ドル) <sup>(*)</sup>
	前第1四半期 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
売上収益	¥801,850	¥949,603	\$8,551
売上原価	△238,078	△241,264	△2,173
販売費及び一般管理費	△202,374	△219,843	△1,980
研究開発費	△106,821	△122,480	△1,103
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	△104,250	△102,824	△926
その他の営業収益	63,732	11,118	100
その他の営業費用	△46,774	△25,758	△232
営業利益	167,285	248,552	2,238
金融収益	19,611	45,851	413
金融費用	△46,846	△71,068	△640
持分法による投資損益	△9,759	△357	△3
税引前四半期利益	130,291	222,978	2,008
法人所得税費用	△47,772	△85,252	△768
四半期利益	82,519	137,726	1,240
四半期利益の帰属			
親会社の所有者持分	82,511	137,684	1,240
非支配持分	8	43	0
合計	82,519	137,726	1,240
1株当たり四半期利益(円)			
基本的1株当たり四半期利益	52.93	87.96	0.79
希薄化後1株当たり四半期利益	52.69	87.45	0.79

(\*) 当連結損益計算書の米ドルへの換算は、読者に対して便宜的に表示するためのものであり、ニューヨーク連邦準備銀行によって認証されている2021年6月30日時点の換算レート「Noon Buying Rate：1米ドル111.05円」で換算しております。便宜的な米ドル表示に用いられている換算レートおよび方法は、要約四半期連結財務諸表の作成で用いられた国際会計基準（IFRS）に準拠した換算レートおよび方法とは異なります。また、これらの米ドル表示は、円貨額が上記もしくはそれ以外の換算レートを用いて米ドルへ転換できるということを意味するものではありません。



## (2) 要約四半期連結包括利益計算書

	(単位：百万円)		(単位：百万米ドル) <sup>(*)</sup>
	前第1四半期 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期利益	¥82,519	¥137,726	\$1,240
その他の包括利益			
純損益に振り替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産の公正価値の変動	25,518	15,877	143
確定給付制度の再測定	△2,286	△57	△1
	23,232	15,819	142
純損益にその後に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額	1,997	28,280	255
キャッシュ・フロー・ヘッジ	△5,126	12,948	117
ヘッジコスト	△5,357	2,230	20
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	△7	2	0
	△8,493	43,460	391
その他の包括利益合計	14,739	59,279	534
四半期包括利益合計	97,258	197,005	1,774
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者持分	97,183	196,956	1,774
非支配持分	75	49	0
合計	97,258	197,005	1,774

(\*) 当連結包括利益計算書の米ドルへの換算は、読者に対して便宜的に表示するためのものであり、ニューヨーク連邦準備銀行によって認証されている2021年6月30日時点の換算レート「Noon Buying Rate：1米ドル111.05円」で換算しております。便宜的な米ドル表示に用いられている換算レートおよび方法は、要約四半期連結財務諸表の作成で用いられた国際会計基準（IFRS）に準拠した換算レートおよび方法とは異なります。また、これらの米ドル表示は、円貨額が上記もしくはそれ以外の換算レートを用いて米ドルへ転換できるということを意味するものではありません。

## (3) 要約四半期連結財政状態計算書

	(単位：百万円)	(単位：百万米ドル)(*)	
	前年度 (2021年3月31日)	当第1四半期 (2021年6月30日)	
		当第1四半期 (2021年6月30日)	
<b>資産</b>			
<b>非流動資産</b>			
有形固定資産	¥1,453,917	¥1,452,172	\$13,077
のれん	4,033,917	4,058,935	36,551
無形資産	3,909,106	3,856,432	34,727
持分法で会計処理されている投資	112,468	115,751	1,042
その他の金融資産	235,882	258,908	2,331
その他の非流動資産	100,341	95,022	856
繰延税金資産	353,769	343,557	3,094
非流動資産合計	10,199,400	10,180,777	91,677
<b>流動資産</b>			
棚卸資産	753,881	779,148	7,016
売上債権及びその他の債権	783,091	827,253	7,449
その他の金融資産	36,598	29,930	270
未収法人所得税等	29,623	31,704	285
その他の流動資産	122,789	133,307	1,200
現金及び現金同等物	966,222	654,920	5,898
売却目的で保有する資産	20,689	20,195	182
流動資産合計	2,712,893	2,476,458	22,300
<b>資産合計</b>	<b>12,912,293</b>	<b>12,657,234</b>	<b>113,978</b>

	(単位：百万円)	(単位：百万米ドル)(*)	
	前年度 (2021年3月31日)	当第1四半期 (2021年6月30日)	当第1四半期 (2021年6月30日)
負債及び資本			
負債			
非流動負債			
社債及び借入金	¥4,613,218	¥4,381,589	\$39,456
その他の金融負債	517,677	496,546	4,471
退職給付に係る負債	158,857	160,871	1,449
未払法人所得税	33,690	29,006	261
引当金	38,748	35,970	324
その他の非流動負債	56,898	58,768	529
繰延税金負債	542,852	549,059	4,944
非流動負債合計	5,961,940	5,711,809	51,435
流動負債			
社債及び借入金	22,153	24,272	219
仕入債務及びその他の債務	343,838	320,645	2,887
その他の金融負債	248,053	233,170	2,100
未払法人所得税	145,203	200,926	1,809
引当金	471,278	410,300	3,695
その他の流動負債	542,651	517,468	4,660
流動負債合計	1,773,176	1,706,782	15,369
負債合計	7,735,116	7,418,591	66,804
資本			
資本金	1,668,145	1,669,125	15,030
資本剰余金	1,688,424	1,682,504	15,151
自己株式	△59,552	△42,344	△381
利益剰余金	1,509,906	1,503,811	13,542
その他の資本の構成要素	366,114	425,163	3,829
親会社の所有者に帰属する持分	5,173,037	5,238,258	47,170
非支配持分	4,140	385	3
資本合計	5,177,177	5,238,643	47,174
負債及び資本合計	12,912,293	12,657,234	113,978

(\*) 当連結財政状態計算書の米ドルへの換算は、読者に対して便宜的に表示するためのものであり、ニューヨーク連邦準備銀行によって認証されている2021年6月30日時点の換算レート「Noon Buying Rate：1米ドル111.05円」で換算しております。便宜的な米ドル表示に用いられている換算レートおよび方法は、要約四半期連結財務諸表の作成で用いられた国際会計基準（IFRS）に準拠した換算レートおよび方法とは異なります。また、これらの米ドル表示は、円貨額が上記もしくはそれ以外の換算レートを用いて米ドルへ転換できるということを意味するものではありません。

## (4) 要約四半期連結持分変動計算書

前第1四半期(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					
	資本金	資本 剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					在外営業 活動体の 換算差額	その他の包括利益 を通じて公正価値 で測定される 金融資産の 公正価値の変動
2020年4月1日残高	1,668,123	1,680,287	△87,463	1,369,972	91,848	22,891
四半期利益				82,511		
その他の包括利益					1,957	25,484
四半期包括利益	-	-	-	82,511	1,957	25,484
新株の発行	22	22				
自己株式の取得			△2,132			
自己株式の処分		△0	0			
配当				△141,858		
その他の資本の構成要素 からの振替				19,429		△21,715
株式報酬取引による増加		10,043				
株式報酬取引による減少 (権利行使)		△28,878	28,878			
所有者との取引額合計	22	△18,813	26,746	△122,429	-	△21,715
2020年6月30日残高	1,668,145	1,661,474	△60,717	1,330,054	93,805	26,660

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					非支配 持分	資本合計
	その他の資本の構成要素				合計		
	キャッシュ・ フロー・ ヘッジ	ヘッジ コスト	確定給付 制度の 再測定	合計			
2020年4月1日残高	△22,730	555	-	92,564	4,723,483	4,003	4,727,486
四半期利益				-	82,511	8	82,519
その他の包括利益	△5,126	△5,357	△2,286	14,672	14,672	67	14,739
四半期包括利益	△5,126	△5,357	△2,286	14,672	97,183	75	97,258
新株の発行				-	44		44
自己株式の取得				-	△2,132		△2,132
自己株式の処分				-	0		0
配当				-	△141,858	△77	△141,935
その他の資本の構成要素 からの振替			2,286	△19,429	-		-
株式報酬取引による増加				-	10,043		10,043
株式報酬取引による減少 (権利行使)				-	△0		△0
所有者との取引額合計	-	-	2,286	△19,429	△133,903	△77	△133,980
2020年6月30日残高	△27,856	△4,802	-	87,807	4,686,763	4,001	4,690,764

当第1四半期(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					
	資本金	資本 剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					在外営業 活動体の 換算差額	その他の包 括利益を通 じて公正価 値で 測定される 金融資産の 公正価値の 変動
2021年4月1日残高	1,668,145	1,688,424	△59,552	1,509,906	400,798	41,983
四半期利益				137,684		
その他の包括利益					28,208	15,944
四半期包括利益	-	-	-	137,684	28,208	15,944
新株の発行	980	6,898				
自己株式の取得			△4,464			
自己株式の処分		△0	0			
配当				△141,859		
持分変動に伴う増減額				△2,143		
その他の資本の構成要素 からの振替				224		△281
株式報酬取引による増加		8,547				
株式報酬取引による減少 (権利行使)		△21,365	21,671			
所有者との取引額合計	980	△5,919	17,208	△143,779	-	△281
2021年6月30日残高	1,669,125	1,682,504	△42,344	1,503,811	429,006	57,646

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配 持分	資本合計
	その他の資本の構成要素				合計	合計		
	キャッシ ュ・フロ ー・ヘッ ジ	ヘッジ コスト	確定給付 制度の 再測定	合計				
2021年4月1日残高	△68,075	△8,592	-	366,114	5,173,037	4,140	5,177,177	
四半期利益				-	137,684	43	137,726	
その他の包括利益	12,948	2,230	△57	59,272	59,272	7	59,279	
四半期包括利益	12,948	2,230	△57	59,272	196,956	49	197,005	
新株の発行				-	7,878		7,878	
自己株式の取得				-	△4,464		△4,464	
自己株式の処分				-	0		0	
配当				-	△141,859		△141,859	
持分変動に伴う増減額				-	△2,143	△3,804	△5,948	
その他の資本の構成要素 からの振替			57	△224	-		-	
株式報酬取引による増加				-	8,547		8,547	
株式報酬取引による減少 (権利行使)				-	307		307	
所有者との取引額合計	-	-	57	△224	△131,734	△3,804	△135,539	
2021年6月30日残高	△55,126	△6,362	-	425,163	5,238,258	385	5,238,643	

## (5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：百万円)		(単位：百万米ドル)(*)	
	前第1四半期 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー				
四半期利益	¥82,519	¥137,726		\$1,240
減価償却費及び償却費	141,587	142,948		1,287
減損損失	7,458	53		0
持分決済型株式報酬	10,043	8,547		77
SHP647に関連する負債の取崩益	△60,179	-		-
有形固定資産の処分及び売却に係る損失	300	94		1
事業譲渡及び子会社株式売却益	△365	△365		△3
条件付対価契約に関する金融資産及び金融負債の公正 価値変動額（純額）	19,297	△934		△8
金融収益及び費用（純額）	27,235	25,216		227
持分法による投資損益	9,759	357		3
法人所得税費用	47,772	85,252		768
資産及び負債の増減額				
売上債権及びその他の債権の増加額	△25,845	△41,835		△377
棚卸資産の増加額	△4,367	△21,009		△189
仕入債務及びその他の債務の減少額	△23,153	△24,854		△224
引当金の増減額（△は減少）	2,177	△65,217		△587
その他の金融負債の増減額（△は減少）	685	△7,985		△72
その他（純額）	△37,579	△35,236		△317
営業活動による現金生成額	197,344	202,760		1,826
法人所得税等の支払額	△51,483	△35,902		△323
営業活動によるキャッシュ・フロー	145,861	166,858		1,503
投資活動によるキャッシュ・フロー				
利息の受取額	308	349		3
配当金の受取額	177	139		1
有形固定資産の取得による支出	△23,135	△29,838		△269
有形固定資産の売却による収入	26	79		1
無形資産の取得による支出	△17,342	△12,454		△112
投資の取得による支出	△3,517	△3,251		△29
投資の売却、償還による収入	44,437	483		4
事業取得による支出 （取得した現金及び現金同等物控除後）	-	△27,549		△248
事業売却による収入 （処分した現金及び現金同等物控除後）	-	2,138		19
その他（純額）	△292	△543		△5
投資活動によるキャッシュ・フロー	662	△70,445		△634

	(単位：百万円)		(単位：百万米ドル)(*)	
	前第1四半期 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	
財務活動によるキャッシュ・フロー				
短期借入金及びコマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	△10,000	1	0	
社債の償還及び長期借入金の返済による支出	△9,979	△242,919	△2,187	
自己株式の取得による支出	△2,132	△2,542	△23	
利息の支払額	△30,207	△23,218	△209	
配当金の支払額	△133,115	△132,032	△1,189	
リース負債の支払額	△7,213	△10,328	△93	
その他(純額)	△119	-	-	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△192,765	△411,038	△3,701	
現金及び現金同等物の減少額	△46,242	△314,625	△2,833	
現金及び現金同等物の期首残高 (連結財政状態計算書計上額)	637,614	966,222	8,701	
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,585	3,324	30	
現金及び現金同等物の四半期末残高 (要約四半期連結財政状態計算書計上額)	589,787	654,920	5,898	

(\*) 当連結キャッシュ・フロー計算書の米ドルへの換算は、読者に対して便宜的に表示するためのものであり、ニューヨーク連邦準備銀行によって認証されている2021年6月30日時点の換算レート「Noon Buying Rate：1米ドル111.05円」で換算しております。便宜的な米ドル表示に用いられている換算レートおよび方法は、要約四半期連結財務諸表の作成で用いられた国際会計基準(IFRS)に準拠した換算レートおよび方法とは異なります。また、これらの米ドル表示は、円貨額が上記もしくはそれ以外の換算レートを用いて米ドルへ転換できるということを意味するものではありません。

(6) その他情報

(重要な後発事象)

当社グループは、2021年7月9日において、2018年11月に発行したユーロ建無担保普通社債の残高1,500百万ユーロを、2022年11月21日の償還期日に先立ち繰上償還する旨を社債権者に通知しました。本繰上償還は、2021年8月10日に実行される予定であります。本繰上償還が連結損益計算書に与える重要な影響はありません。



## 補足情報

### [1. パイプラインの状況](#)

[開発の状況](#)

[最近のステージアップ品目](#)

[開発中止品目](#)

[主な共同研究開発活動](#)

### [2. 補足財務情報](#)

- [地域別売上収益](#)
  - [累計](#)
  - [四半期](#)
- [主要製品別売上高（財務報告ベース 対前年同期比）](#)
  - [累計](#)
- [主要製品別売上高（財務報告ベースおよび実質ベース成長率）](#)
- [主要品目見込](#)
- [為替レート](#)
- [資本的支出、減価償却費及び償却費、減損損失](#)

### [3. 調整表](#)

- [2021年度第1四半期 財務ベース売上収益からCore売上収益/実質的な売上収益への調整表](#)
- [2021年度第1四半期 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表](#)
- [2020年度第1四半期 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表](#)
- [フリー・キャッシュ・フロー](#)
- [2021年度第1四半期 LTM 当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整](#)
- [純有利子負債/調整後EBITDA](#)
- [2021年度予測 - 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表](#)

## 1. パイプラインの状況

### I. 開発の状況

- 本表では2021年7月30日現在、当社が開発しているパイプライン品目を掲載しています。掲載している品目は様々な開発段階にあり、今後、開発中止や新規パイプラインの臨床ステージ入りによって内容が変わる可能性があります。本表にある品目が製品として発売になるかどうかは、前臨床試験や臨床試験の結果・市場動向の変化・規制当局からの販売承認取得の有無など、様々な要因に影響されます。
- 本表では当社が承認取得を目指しているパイプラインの効能を掲載しています。掲載している効能以外にも、将来の効能・剤型追加の可能性を検討するために臨床試験を行っています。
- 本表では米国・欧州・日本・中国における開発状況を掲載していますが、新興国を含め他の地域においても開発を行っています。「開発段階」の欄には、米国・欧州・日本・中国のうちのいずれかにおいて、申請用データ取得試験を実施している、または販売許可申請を実施した国、地域を示しています。「グローバル」の表記は米国・欧州・日本・中国における開発をまとめて記載しています。
- タケダが販売権を持っている地域において、いずれかの適応症で販売承認を取得している場合、製品名も記載しています（米国・欧州・日本・中国のみ）。
- ステージアップの基準はFSI（第一被験者の登録日）としています。
- 下記の表にあるパイプラインのモダリティは、「低分子」、「ペプチド・オリゴヌクレオチド」、「細胞および遺伝子治療」、「マイクロバイオーム」、「生物学的製剤他」のいずれかに分類しています。

## ● がん領域

開発コード ＜一般名＞ 製品名（国/地域）	薬効（投与経路）	モダリティ	適応症／剤型追加	開発段階	
<b>SGN-35<sup>*1</sup></b> <b>&lt;brentuximab vedotin&gt;</b> アドセトリス (欧州、日本、中国)	CD30モノクローナル抗体 薬物複合体（注射剤）	生物学的製剤他	皮膚T細胞リンパ腫	中国	承認（21/4）
<b>&lt;brigatinib&gt;</b> アルンプリグ (グローバル)	ALK阻害薬（経口剤）	低分子	ALK陽性非小細胞肺癌 (ファーストライン&セカンドライン)	中国	申請（20/12）
			ALK陽性非小細胞肺癌（セカンドライン； アレクチニブとの直接比較試験）	グローバル	P－Ⅲ
<b>MLN9708</b> <b>&lt;ixazomib&gt;</b> ニンラーロ (グローバル)	プロテアソーム阻害薬 (経口剤)	低分子	造血幹細胞移植未実施の初発の多発性骨髄腫の 維持療法	日本 米国 欧州 中国	承認（21/5） P－Ⅲ P－Ⅲ P－Ⅲ
			自家造血幹細胞移植後の初発の多発性骨髄腫の 維持療法	米国 欧州	P－Ⅲ P－Ⅲ
<b>&lt;cabozantinib&gt;<sup>*2</sup></b> カボメテイクス (日本)	マルチターゲットキナーゼ 阻害薬（経口剤）	低分子	腎がん (ファーストライン；ニボルマブとの併用)	日本	申請（20/10）
			転移性非小細胞肺癌（セカンドライン； アテゾリズマブとの併用 <sup>*3</sup> ）	日本	P－Ⅲ
			転移性去勢抵抗性前立腺がん (アテゾリズマブとの併用 <sup>*4</sup> )	日本	P－Ⅲ
<b>&lt;ponatinib&gt;</b> ICLUSIG (米国)	BCR-ABL阻害薬 (経口剤)	低分子	フィラデルフィア染色体陽性の急性リンパ性 白血病（フロントライン適応）	米国	P－Ⅲ
<b>TAK-924</b> <b>&lt;pevonedistat&gt;</b>	NEDD8活性化酵素阻害薬 (注射剤)	低分子	高リスク骨髄異形成症候群	グローバル	P－Ⅲ
			移植非適応の急性骨髄性白血病	グローバル	P－Ⅲ
<b>TAK-788</b> <b>&lt;mobocertinib&gt;</b>	EGFR/HER2 阻害薬 (エクソン20変異対応) (経口剤)	低分子	EGFRエクソン20挿入変異を有する 非小細胞肺癌（フロントライン適応）	グローバル	P－Ⅲ
			EGFRエクソン20挿入変異を有する 非小細胞肺癌（セカンドライン以降） <sup>*5</sup>	米国 中国 日本 欧州	申請（21/4） 申請（21/7） <sup>*13</sup> P－Ⅲ P－Ⅲ
<b>TAK-385</b> <b>&lt;relugolix&gt;</b>	LH-RHアンタゴニスト (経口剤)	低分子	前立腺がん	日本 中国	P－Ⅲ P－Ⅲ
<b>TAK-981</b>	SUMO阻害薬（注射剤）	低分子	複数のがん種	—	P－Ⅱ

<b>TAK-007</b> <sup>*6</sup>	CD19 CAR-NK細胞療法 (注射剤)	細胞および遺伝子治療	再発・難治性のB細胞性悪性腫瘍	—	P – I/ II
<b>TAK-102</b> <sup>*7</sup>	GPC3 CAR-T (注射剤)	細胞および遺伝子治療	固形がん	—	P – I
<b>TAK-573</b> <sup>*8</sup>	抗CD38抗体 (IgG4) と活性減弱IFNαとの融合蛋白 (注射剤)	生物学的製剤他	再発・難治性の多発性骨髄腫	—	P – I
<b>TAK-605</b> <sup>*9</sup>	腫瘍溶解性ウイルス (腫瘍内投与)	生物学的製剤他	固形がん	—	P – I
<b>TAK-676</b>	STINGアゴニスト (注射剤)	低分子	固形がん	—	P – I
<b>TAK-940</b> <sup>*10</sup>	CD19 1XX CAR-T (注射剤)	細胞および遺伝子治療	再発・難治性のB細胞性悪性腫瘍	—	P – I
<b>TAK-252 / SL-279252</b> <sup>*11</sup>	PD-1-Fc-OX40L (注射剤)	生物学的製剤他	固形がん又はリンパ腫	—	P – I
<b>TAK-186</b> <sup>*12</sup>	T細胞誘導抗体	生物学的製剤他	EGFR発現固形がん	—	P – I

\*1 Seagen社との提携

\*2 Exelixis社との提携

\*3 中外製薬との提携、P – III試験は同社が実施

\*4 中外製薬との提携、P – III試験は当社が実施

\*5 米国FDAの審査は、オンコロジー・センター・オブ・エクセレンス (腫瘍研究拠点：OCE) の取り組みである、英国、ブラジル、豪州などの国際的なパートナーとの間で

オンコロジー製品の同時申請・同時審査を行う枠組みを提供するProject Orbisに基づいて行われています。

\*6 The University of Texas MD Anderson Cancer Centerとの提携

\*7 Noile-immune Biotech社との提携

\*8 Teva Pharmaceutical Industries社との提携

\*9 Turnstone Biologics社との提携

\*10 Memorial Sloan Kettering Cancer Centerとの提携

\*11 Shattuck Labs社との提携

\*12 TAK-186を含むMaverick Therapeutics社の買収

\*13 2021年度第1四半期における後発事象 (2021年7月1日以降の進捗情報)

2020年度第4四半期以降の追加： なし

2020年度第4四半期以降の削除： TAK-169 再発・難治性の多発性骨髄腫 (P – I、中止)

● 希少遺伝子疾患および血液疾患領域

開発コード ＜一般名＞ 製品名 (国/地域)	薬効 (投与経路)	モダリティ	適応症/剤型追加	開発段階
<b>TAK-743</b> <b>&lt;lanadelumab&gt;</b> TAKHZYRO (米国、欧州、中国)	血漿カリクレイン阻害薬 (注射剤)	生物学的製剤他	遺伝性血管性浮腫	日本 申請 (21/3)
			遺伝性血管性浮腫 (小児)	グローバル P – III
			ブラジキニン介在性血管性浮腫	グローバル P – III
<b>TAK-577</b> VONVENDI (米国、日本) VEYVONDI (欧州)	フォン・ヴィレブランド因子 [遺伝子組換え] (注射剤)	生物学的製剤他	フォン・ヴィレブランド病の予防 (成人)	米国 申請 (21/5) 日本 P – III 欧州 P – III 中国 P – III
			フォン・ヴィレブランド病の出血時および周術期の補充療法 (小児)	グローバル P – III
<b>TAK-660</b> アディノベイト (米国、日本) ADYNOVI (欧州)	抗血友病因子 [遺伝子組換え] PEG修飾 (注射剤)	生物学的製剤他	血友病A (小児)	欧州 P – III
<b>TAK-755</b> <sup>*1</sup>	欠損したADAMTS13 酵素の補充 (注射剤)	生物学的製剤他	先天性血栓性血小板減少性紫斑病	米国 P – III 欧州 P – III
			免疫性血栓性血小板減少性紫斑病	米国 P – II 欧州 P – II
			鎌状赤血球症	米国 P – I/ II

<b>TAK-620</b> <sup>*2</sup> <maribavir>	ベンズイミダゾールリポシド系阻害薬（経口剤）	低分子	移植手術を受けた患者におけるサイトメガロウイルス感染	米国 欧州	申請（21/5） P - III
<b>TAK-607</b>	インスリン様成長因子／インスリン様成長因子結合タンパク（注射剤）	生物学的製剤他	早産児合併症	—	P - II
<b>TAK-609</b>	髄腔内投与用ヒトイズロン酸-2-スルファターゼ（遺伝子組換え）（注射剤）	生物学的製剤他	ハンター症候群（中枢性）	米国 欧州	P - II P - II
<b>TAK-611</b>	髄腔内投与用ヒトアリアルスルファターゼA（遺伝子組換え）（注射剤）	生物学的製剤他	異染性白質ジストロフィー	—	P - II
<b>TAK-079</b> <sup>*3</sup> <mezagitamab>	抗CD38モノクローナル抗体（注射剤）	生物学的製剤他	重症筋無力症	—	P - II
			免疫性血小板減少性紫斑病	—	P - II
			全身性エリテマトーデス	—	P - I / II
<b>TAK-834</b> NATPARA（米国） NATPAR（欧州）	副甲状腺ホルモン（注射剤）	生物学的製剤他	副甲状腺機能低下症	日本	P - I <sup>*4</sup>

\*1 日本においてはKMバイオロジクス社との相互に独占的な共同販売契約

\*2 GlaxoSmithKline社との提携

\*3 再発・難治性の多発性骨髄腫の試験は試験終了まで継続。

\*4 日本における P - I 試験が完了し、P - III 試験開始の時期を検討中

2020年度第4四半期以降の追加： なし

2020年度第4四半期以降の追加： なし

## ● ニューロサイエンス（神経精神疾患）領域

開発コード <一般名>	薬効（投与経路）	モダリティ	適応症／剤型追加	開発段階	
<b>TAK-935</b> <soticlestat>	CH24H阻害薬（経口剤）	低分子	ドラベ症候群、レノックス・ガストー症候群	—	P - II
			15q重複症候群、サイクリン依存性キナーゼ様5（CDKL5）遺伝子欠損症	—	P - II
<b>TAK-994</b>	オレキシン2Rアゴニスト（経口剤）	低分子	ナルコレプシー	—	P - II
<b>TAK-071</b>	M1ポジティブアロステリックモジュレーター（M1PAM）（経口剤）	低分子	パーキンソン病	—	P - II
<b>TAK-041</b> <sup>*2</sup>	GPR139アゴニスト（経口剤）	低分子	大うつ病における無快楽症	—	P - I
<b>TAK-341/</b> <b>MEDI1341</b> <sup>*3</sup>	抗α-シヌクレイン抗体（注射剤）	生物学的製剤他	パーキンソン病	—	P - I
<b>TAK-653</b> <sup>*2</sup>	AMPA受容体ポテンシエーター（経口剤）	低分子	抗うつ薬による効果が不十分な大うつ病	—	P - I
<b>TAK-861</b>	オレキシン2Rアゴニスト（経口剤）	低分子	睡眠障害、その他	—	P - I
<b>TAK-925</b>	オレキシン2Rアゴニスト（注射剤）	低分子	ナルコレプシー、その他の睡眠障害	—	P - I

\*1 Neurocrine社との50/50共同開発・共同販売のオプション契約

\*2 Neurocrine社との50/50共同開発・共同販売契約

\*3 AstraZeneca社との提携、P - I 試験は同社が実施

2020年度第4四半期以降の追加： なし

2020年度第4四半期以降の削除： TAK-831 統合失調症に伴う陰性症状（P - II a、中止）

TAK-831 統合失調症に伴う認知機能障害

（P - II a、Neurocrine社が実施する追加試験への参加は見送ることを決定）

● 消化器系疾患領域

開発コード ＜一般名＞ 製品名（国/地域）	薬効（投与経路）	モダリティ	適応症／剤型追加	開発段階
<b>MLN0002</b> <b>&lt;vedolizumab&gt;</b> エンタイビオ (グローバル)	ヒト化抗α4β7インテグリンモノクローナル抗体 (注射剤)	生物学的製剤他	皮下投与製剤（潰瘍性大腸炎）	米国 日本 審査完了通知受領 (19/12) <sup>*9</sup> 申請 (19/8)
			皮下投与製剤（クローン病）	米国 日本 P－Ⅲ P－Ⅲ
			抗生物質不応性の回腸囊炎	欧州 申請 (21/7) <sup>*10</sup>
			同種造血幹細胞移植を受けている患者における移植片対宿主病の予防	欧州 日本 P－Ⅲ P－Ⅲ
			潰瘍性大腸炎・クローン病（小児）	グローバル P－Ⅱ
<b>TAK-438</b> <b>&lt;vonoprazan&gt;</b> タケキャブ (日本) VOCINTI (中国)	カリウムイオン競合型アシッドブロッカー（経口剤）	低分子	酸関連疾患（逆流性食道炎の維持療法）	中国 申請 (20/3)
			酸関連疾患（十二指腸潰瘍）	中国 申請取り下げ (21/6) <sup>*11</sup>
			口腔内崩壊錠	日本 申請 (21/3)
			酸関連疾患 (ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助)	中国 P－Ⅲ
<b>TAK-633</b> <b>&lt;teduglutide&gt;</b> GATTEX (米国) / REVESTIVE (欧州、日本)	GLP-2アナログ（注射剤）	ペプチド・オリゴヌクレオチド	短腸症候群（小児）	日本 承認 (21/6)
			短腸症候群（成人）	日本 承認 (21/6)
<b>TAK-721</b> <sup>*1</sup> <b>&lt;budesonide&gt;</b>	糖質コルチコステロイド (経口剤)	低分子	好酸球性食道炎	米国 申請 (20/12)
<b>Cx601</b> <b>&lt;darvadstrocel&gt;</b> ALOFISEL (欧州)	同種異系脂肪由来幹細胞懸濁剤（注射剤）	生物学的製剤他	難治性のクローン病に伴う肛門複雑瘻孔	米国 日本 P－Ⅲ 申請 (21/2)
<b>TAK-906</b>	ドパミンD2/D3受容体アンタゴニスト（経口剤）	低分子	胃不全麻痺	— P－Ⅱ b
<b>TAK-954</b> <sup>*2</sup>	5-HT4受容体アゴニスト（注射剤）	低分子	術後消化器機能障害	— P－Ⅱ b
<b>TAK-999</b> <sup>*3</sup>	GalNAcベースRNA干渉（RNAi）（注射剤）	ペプチド・オリゴヌクレオチド	α-1アンチトリプシン欠損関連肝疾患	米国 欧州 P－Ⅱ b P－Ⅱ b
<b>TAK-101</b> <sup>*4</sup>	Tolerizing Immune Modifying nanoParticle (TIMP)（注射剤）	生物学的製剤他	セリアック病	— P－Ⅱ a
<b>TAK-018/EB8018</b> <sup>*5</sup> <b>&lt;sibofimloc&gt;</b>	FimH アンタゴニスト（経口剤）	低分子	クローン病（手術後および回腸炎）	— P－Ⅱ a
<b>TAK-951</b>	ペプチドアゴニスト（皮下注射製剤）	ペプチド・オリゴヌクレオチド	悪心、嘔吐	— P－Ⅱ
<b>TAK-510</b>	ペプチドアゴニスト（皮下注射製剤）	ペプチド・オリゴヌクレオチド	悪心、嘔吐	— P－Ⅰ
<b>TAK-062</b> <sup>*6</sup>	グルテン分解酵素（経口剤）	生物学的製剤他	セリアック病	— P－Ⅰ
<b>TAK-039</b> <sup>*7</sup>	細菌コンソーシアム（経口剤）	マイクロバイオーム	クロストリジウム・ディフィシル感染症 <sup>*8</sup>	— P－Ⅰ

\*1 UCSDおよびFortis Advisors社との提携

\*2 Theravance Biopharma社との提携

\*3 Arrowhead Pharmaceuticals社との提携

\*4 Cour Pharmaceuticals社からTAK-101の開発および製品化の権利を獲得。旧名TIMP-GLIA

\*5 Enterome Biosciences社との提携

\*6旧名Kuma062

\*7 NuBiyota社との提携

\*8 クロストリジウム・ディフィシル感染症でのP－Ⅰ試験完了。戦略上、本プログラムは肝性脳症で開発予定

\*9米国FDAから受領した皮下投与製剤に対するComplete Response Letter（審査完了通知）は、臨床での安全性・有効性データに関連するものではなく、皮下投与製剤のデバイスのデザインやラベルに関する内容。当社の最新データのレビューおよび皮下投与製剤の承認を得るために求められる追加データについてガイダンスを求め

## 目次

るために、2020年8月にFDAと面談を実施。面談においてデバイスに対して求められるデータを明確化して、その対応を進めている。デバイスの検討を継続するには時間を要するため、FDAより承認取得後、2022年には米国において中等から重症の潰瘍性大腸炎を対象に上市可能性を見込む。

\*10 2021年度第1四半期における後発事象（2021年7月1日以降の進捗情報）

\*11 今回のsNDA申請の取り下げは、今後、試験デザインを更新し、更新した試験デザインにおいて示される有効性データのポイントについて中国CDE（医薬品評価センター）と合意するための、交渉の余地を残すためのものです。製品の安全性に関連するものではありません。

2020年度第4四半期以降の追加： なし

2020年度第4四半期以降の削除： TAK-671 急性肺炎（P-I、中止）

## 血漿分画製剤

開発コード 〈一般名〉 製品名（国/地域）	薬効（投与経路）	モダリティ	適応症／剤型追加	開発段階	
<b>TAK-664</b> CUVITRU （米国、欧州）	免疫グロブリン20% [ヒト由来]（皮下注射製剤）	生物学的製剤他	原発性免疫不全症候群	日本	P-III
<b>TAK-771</b> *1 〈IG Infusion 10% (Human) w/ Recombinant Human Hyaluronidase〉 HYQVIA（米国、欧州）	遺伝子組換え型ヒトヒアルロンダーゼ含有免疫グロブリンG補充療法（注射剤）	生物学的製剤他	原発性免疫不全症候群（小児適応）	米国	P-III
			慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	米国 欧州	P-III P-III

\*1 Halozyme社との提携

2020年度第4四半期以降の追加： なし

2020年度第4四半期以降の削除： なし

## ワクチン

開発コード	薬効（投与経路）	モダリティ	適応症／剤型追加	開発段階	
<b>TAK-919/mRNA-1273</b> *1 COVID-19ワクチンモデルナ筋注（日本）	SARS-CoV-2ワクチン（注射剤）	生物学的製剤他	新型コロナウイルスによる感染症（COVID-19）の予防	日本	承認（21/5）*5
<b>TAK-003</b>	4価 Dengue 熱ワクチン（注射剤）	生物学的製剤他	いずれかの血清型によるあらゆる重症度の Dengue 熱ウイルスによる感染症の予防、ただし 4-60歳が対象	欧州および EU-M4all	申請（21/3）*6 P-III
<b>TAK-019/ NVX-CoV2373</b> *2	SARS-CoV-2ワクチン（注射剤）	生物学的製剤他	新型コロナウイルスによる感染症（COVID-19）の予防	日本	P-I/II
<b>TAK-214</b> *3	ノロウイルスワクチン（注射剤）	生物学的製剤他	急性胃腸炎を引き起こすノロウイルス感染症の予防	—	P-IIb
<b>TAK-426</b> *4	ジカウイルスワクチン（注射剤）	生物学的製剤他	ジカウイルスによる感染症の予防	—	P-I

\*1 Moderna社のCOVID-19ワクチン候補を日本に導入するためのModerna社、厚生労働省との提携

\*2 厚生労働省、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の助成を受け、Novavax社COVID-19ワクチン候補を日本に導入するためのNovavax社との提携

\*3 HilleVax社との提携。HilleVax社は日本を除く全世界での独占的な開発・製品化の権利を保有し、当社は日本における製品化の権利を保有

\*4 米国政府Biomedical Advanced Research and Development Authority（BARDA）との提携

\*5 12歳以上への接種年齢の拡大（2021/7）、2021年度第1四半期における後発事象（2021年7月1日以降の進捗情報）

\*6 欧州での申請に加え、欧州連合（EU）圏外の国を対象としたEU-M4all（旧称：Article58）制度により、EU-M4all制度に参加していない中南米やアジアの Dengue 熱流行国においても申請を開始

2020年度第4四半期以降の追加： なし

2020年度第4四半期以降の削除： なし

## II. 最近のステージアップ品目 ※2021年4月1日以降の進捗情報

開発コード <一般名>	適応症/剤型追加	国/地域	進捗情報
SGN-35 <brentuximab vedotin>	皮膚T細胞リンパ腫	中国	承認 (21/4)
MLN9708 <ixazomib>	造血幹細胞移植未実施の初発の多発性骨髄腫の維持療法	日本	承認 (21/5)
TAK-919/mRNA-1273	新型コロナウイルスによる感染症 (COVID-19) の予防	日本	承認 (21/5)
TAK-633 <teduglutide>	短腸症候群 (小児および成人)	日本	承認 (21/6)
TAK-788 <mobocertinib>	EGFR エクソン20挿入変異を有する非小細胞肺癌 (セカンドライン以降)	米国	申請 (21/4)
TAK-577	フォン・ヴィレブランド病の予防 (成人)	米国	申請 (21/5)
TAK-620 <maribavir>	移植手術を受けた患者におけるサイトメガロウイルス感染	米国	申請 (21/5)
TAK-788 <mobocertinib>	EGFR エクソン20挿入変異を有する非小細胞肺癌 (セカンドライン以降)	中国	申請 (21/7) *
MLN0002 <vedolizumab>	抗生物質不応性の回腸囊炎	欧州	申請 (21/7) *
TAK-981	複数のがん種	—	P – II
TAK-861	睡眠障害、その他	—	P – I

\* 2021年度第1四半期における後発事象 (2021年7月1日以降の進捗情報)

Ⅲ. 開発中止品目 ※2021年4月1日以降の情報

開発コード	適応症／剤型追加（開発段階）	中止および終了理由
CoVIg-19	COVID-19の臨床症状を発症した成人の入院患者（米国、欧州、日本、P-Ⅲ）	米国国立衛生研究所（NIH）の一部である米国国立アレルギー・感染症研究所（NIAID）がスポンサーとして実施していた臨床第3相ITAC試験は、評価項目を満たすことができなかった。
TAK-169	再発・難治性の多発性骨髄腫（P-I）	TAK-169の全権利についてMolecular Templates社への返還を決定。
TAK-831 <luvadaxistat>	統合失調症に伴う陰性症状および認知機能障害（P-II）	臨床データに基づき、パートナーであるNeurocrine社は、統合失調症陰性症状の開発を中止することを決定しました。Neurocrine社は統合失調症に伴う認知機能障害を対象としたTAK-831の開発は継続。当社はNeurocrine社が実施する追加試験への参加は見送ることを決定し、ロイヤルティ等を受領する権利のみを維持
TAK-671	急性膵炎（P-I）	当社はビジネス上の決定に基づき更なる開発について取り止める選択をしました。開発を継続する権利はSamsung Bioepis社が保有します。



## IV. 主な共同研究開発活動\*

## ● がん領域

提携先	国	内容/目的
Adimab	米国	がん領域において、3つのモノクローナル抗体及び3つのCD3二重特異性抗体の創薬・開発・販売。
Centre d'Immunologie de Marseille-Luminy	フランス	先天性生物学における専門知識を当社のBacTrap技術と組み合わせ、骨髄細胞における新規の標的および経路を検証。
あすか製薬	日本	relugolix（一般名、開発コード：TAK-385）に関し、製品価値の最大化を目的に、日本における子宮筋腫での独占的販売権および子宮内膜症での独占的開発・販売権を、あすか製薬に導出。
Crescendo Biologics	英国	がん領域におけるHumabody <sup>®</sup> を用いた治療薬の創製、開発および販売。
Egle Therapeutics	フランス	腫瘍特異的制御性T細胞の新規標的を特定し、独自の抗サブレッサーに基づく免疫療法を開発。
Exelixis, Inc.	米国	がん治療薬cabozantinibに関して、日本における進行性腎細胞癌及び肝細胞癌をはじめ適応拡大を含めた独占的な開発・販売権を獲得。
GammaDelta Therapeutics	英国	ヒト組織常在型のガンマ・デルタT細胞が有する独自の特性に基づくGammaDelta社の新規T細胞基盤技術を活用した、がん領域での新たな免疫治療薬の研究開発。
GlaxoSmithKline	英国	新規がん治療薬niraparibに関して、日本における全てのがん、および韓国及び台湾においては前立腺がんを除く全てのがんに関する独占的開発・販売権を獲得。
Heidelberg Pharma	ドイツ	抗体薬物複合体に関する2標的に関するライセンスを含む研究提携（アルファアマニチン毒素及び独占権を有するリンカー）。
KSQ Therapeutics	米国	KSQ社のCRISPRomics <sup>®</sup> 技術を用いたがんに対する新規免疫ベース治療に関する、研究・開発・商業化における戦略的提携。
MD Anderson Cancer Center, University of Texas	米国	B細胞性の悪性腫瘍やその他のがんをターゲットとしたIL-15分泌促進型の臍帯血由来キメラ抗原受容体を発現したNK（CAR NK）細胞療法に関する独占的ライセンス契約ならびに共同研究開発契約。
Memorial Sloan Kettering Cancer Center	米国	多発性骨髄腫、急性骨髄性白血病および追加対象として固形がんの治療を目的とした新規のキメラ抗原受容体発現T細胞（CAR-T）の細胞療法を開発するための戦略的な共同研究契約およびライセンス契約を締結。本共同研究は、現在、Memorial Sloan Ketteringの細胞工学センターの責任者であるMichel Sadelainが共同で実施。
Molecular Templates	米国	Molecular Templates社のengineered toxin bodies（EBT）基盤技術を、当社が提供する潜在的治療ターゲットに適用する。当社は、本提携において見出された製品の権利を獲得する独占的オプション権を保有。
Myovant Sciences	スイス	日本とアジアの一部の国を除く全世界におけるrelugolix（TAK-385）の独占的権利、および全世界におけるMVT-602（TAK-448）の独占的権利をMyovant社に供与。
国立がん研究センター	日本	抗がん剤の創薬やがん生物学の研究に携わる研究者、医師などの交流促進を通じて、基礎研究から臨床試験まで進展させるための協力契約。
ノイルイミュン・バイオテック	日本	山口大学玉田耕治教授により開発された次世代型キメラ抗原受容体発現T細胞（CAR-T）療法の研究開発。当社は本提携により創出されたノイルイミュン・バイオテック社のパイプラインや製品の開発・販売権を導入できる独占的オプションを有する。本共同研究の成果を受け、NIB-102とNIB-103を導入済み。
Presage Biosciences	米国	抗がん剤を微量投与した際の患者の反応を評価するために、Presage社の独自のプラットフォームであるCIVOを用いた複数のプログラムに関する共同研究およびライセンス契約。
Seagen	米国	CD30を標的とするADC（抗体薬物複合体）であるホジキンリンパ腫治療剤「アドセトリス」の共同開発。現在は67カ国において承認済みであり、追加効能取得のための臨床試験を実施中。
Shattuck Labs	米国	免疫療法と単一薬剤の組み合わせを可能とするShattuck社独自のAgonist Redirected Checkpoint（ARC） <sup>™</sup> プラットフォーム技術を用いたチェックポイント融合蛋白の探索及び開発。当社はTAK-252/SL-279252のさらなる開発や販売の権利を導入する独占的オプションを有する。
Teva	イスラエル	TEV-48573（TAK-573）（CD38-Attenukine）の全世界の権利及びTeva社のAttenukineプラットフォーム技術を活用する複数のターゲットの研究提携。
Turnstone Biologics	米国	TAK-605（RIVAL-01）（aCTLA4、IL12-mb、flt3Lを発現する新しい腫瘍溶解性ウイルス）を共同開発するグローバル提携。Turnstone社のワクシニアウイルスプラットフォームに基づいて追加の新規治療薬候補を特定する共同研究も併せて実施する。

\* 本リストは全ての共同研究開発活動を記載しているものではありません。

## ● 希少遺伝子疾患および血液疾患領域

提携先	国	内容/目的
Asklepios Biopharmaceuticals	米国	血友病AおよびBを対象とする第Ⅷ因子の遺伝子治療を目的とする複数の研究開発提携。
BioMarin	米国	イデュルスルファラーゼの髄腔内投与により外因性イズロン酸-2-スルファターゼ補充を可能にする技術の導入。認知機能障害を伴うハンター症候群患者において、長期的な治療のために本酵素を中枢神経系に直接到達させることにより、認知機能障害の進行を遅らせる (TAK-609)。
Carmine Therapeutics	シンガポール	赤血球細胞外小胞に基づくCarmine社のREGENT™技術を用いて、希少疾患領域の2つの標的に対する革新的な非ウイルス性の遺伝子治療を創薬、開発、および商業化する提携。
Codexis, Inc.	米国	リソソーム蓄積症および血液因子欠乏症の治療を含む、特定の適応症に対する新規遺伝子治療の研究・開発を目的とする戦略的提携・ライセンス契約
Ensoma	米国	Ensoma社のEngenius™ベクターについて、最大5つの希少疾患の適応症を対象とした全世界での独占的権利を取得する共同研究およびライセンス契約。
Evox Therapeutics	英国	新規のタンパク質補充療法およびmRNA治療薬、ならびにEvox社独自のエキソソーム技術を活用した選択的な薬剤送達の開発を目的とした提携。最大5つの希少疾患をターゲットし、当社は臨床開発の責任を負う。
GlaxoSmithKline	英国	GlaxoSmithKline社およびミシガン大学とのヒトサイトメガロウイルス感染症治療薬としてのTAK-620 (maribavir) 導入契約。
IPSEN	フランス	後天性血友病A治療薬としてのObizur開発のための譲渡 (購入) 契約。緊急および非緊急の手術におけるインヒビター保有先天性血友病A患者への適用開発も含む。
KMバイオロジクス	日本	血栓性血小板減少性紫斑病におけるADAMTS13欠損克服を目的としたTAK-755の開発提携。
Rani Therapeutics	米国	血友病治療として第Ⅷ因子を経口で送達するためのマイクロタブレットビル技術の評価を行う研究提携。
Xenetic Biosciences	米国	PolyXen (ポリシリアル酸ポリマー) を用いた血友病第Ⅷ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子および第Ⅹ因子の送達技術に関する独占的研究開発ライセンス契約。

## ● ニューロサイエンス (神経精神疾患) 領域

提携先	国	内容/目的
Anima Biotech	米国	遺伝的に特定された神経疾患に対するmRNA翻訳調節薬に関する戦略的な共同研究・開発。
AstraZeneca	英国	パーキンソン病の治療薬候補として、alpha-synuclein抗体であるMEDI1341の共同開発・販売契約。
BridGene Biosciences	米国	BridGene社のケモプロテオミクスプラットフォームを用いて、「undruggable」なターゲットに対する低分子医薬品の発見を目指す共同研究。
Denali Therapeutics	米国	Denali社が有する脳へのバイオ治療薬移行性を高めるAntibody Transport Vehicle (ATV) プラットフォーム技術を用いた、最大3つの神経変性疾患治療薬候補の開発および販売に関する戦略的オプションおよび提携契約。
Lundbeck	デンマーク	Vortioxetineの共同開発・販売契約。
Neurocrine Biosciences	米国	TAK-041、TAK-653およびTAK-831を含む当社の早期から中期開発段階の神経疾患領域パイプラインに関する開発および製品化に関する提携。当社は開発マイルストーン、販売マイルストーン、および正味売上高に応じたロイヤルティを取得する権利を有する。特定の開発段階において、当社はすべての臨床試験プログラムについて、1つひとつのパイプラインごとに、50:50の利益配分を受ける、または受けたくない選択をすることができる。当社が50:50の利益配分の適用を受けるパイプラインについて、開発または販売マイルストーンを受領する権利を有しない。TAK-831については、当社はNeurocrine社が実施する追加試験への参加は見送ることを決定し、ロイヤルティ等を受領する権利のみを維持
PeptiDream **	日本	神経筋疾患および神経変性疾患に対するペプチド-薬物複合体 (PDCs) の創製に関する共同研究および独占的ライセンス契約。
Skyhawk Therapeutics	米国	神経変性疾患をターゲットとするRNA調整治療薬の開発および販売に関する提携・ライセンス契約。
Stride Bio	米国	In vivoでAAVによるフリードライヒ運動失調症とその他二つの非開示ターゲットを対象とする治療法開発を行う共同研究・ライセンス契約。
Wave Life Sciences	シンガポール	神経疾患に対するアンチセンスオリゴヌクレオチド医薬品の開発を目指した研究開発および販売に関する提携、ならびに複数のプログラムに関するオプション契約。

† 2021年4月1日以降の新規契約

\* 2021年度第1四半期における後発事象 (2021年7月1日以降の進捗情報)

● 消化器系疾患領域

提携先	国	内容/目的
Ambys Medicines	米国	様々な肝疾患において、肝機能の回復および肝不全への進行抑制という差し迫った医療ニーズに対し、細胞治療、遺伝子治療、機能獲得薬物療法を含む新規モダリティを臨床応用。本契約に基づき、当社はINDに達する最初の4つの品目の米国以外での販売権を得るオプションを有する。
Arcturus	米国	非アルコール性脂肪肝炎および他の消化器系疾患において、Arcturus社が有するLUNAR™脂質媒体薬物送達システムおよびUnlocked Nucleomonomer Agent (UNA) オリゴマーの化学的性質を活用し、RNAをベースとする治療薬を共同開発。
Arrowhead Pharmaceutical	米国	α-1アンチトリプシン欠乏症による肝疾患 (AATLD) を対象とし、現在臨床第2相試験の段階にあるRNA干渉 (RNAi) 治療薬TAK-999 (ARO-AAT) の開発に向けた提携およびライセンス契約。ARO-AATは、AATLDの進行を引き起こす変異型α-1アンチトリプシン蛋白の産生を低減する目的で設計されたファースト・イン・クラスの治療薬となる可能性がある。
Beacon Discovery	米国	消化器系疾患に対するG蛋白質共役型受容体に関連する薬剤の創薬・開発プログラム。本契約に基づき、当社は提携によって創出された品目のグローバルの開発・生産・販売権を有する。
Cerevance	米国	中枢神経系で発現する新規標的タンパク質を特定し、ある種の消化器系の障害に対する新しい治療法を開発するための複数年にわたる研究提携。提携の目標は、Cerevance社のNETSeq技術によって生成された遺伝子発現データセットから、ターゲットを選択、特定および検証すること。
Cour Pharmaceutical Development Company	米国	COUR社からグリアジンタンパク質含有のImmune Modifying NanoparticleであるTIMP-GLIA (TAK-101) の全世界での独占的な開発および製品化の権利を獲得。
Engitix	英国	Engitix社の肝線維症プラットフォームを活用する提携およびライセンス契約。研究活動および新たな治療プログラムにつながる可能性のある標的候補の選定、確認、検証を行う。
Enterome	フランス	潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患を含む消化器系疾患において重要な役割を担うと考えられる腸内細菌を標的とした新たな治療薬を創出・開発。また、EB8018/TAK-018のクローン病におけるグローバルのライセンス及び共同開発。
Finch Therapeutics	米国	炎症性腸疾患を対象とした腸内細菌移植試験における良好な臨床結果との関連が示唆される複数の細菌株を培養した生菌の生物学的製剤であるFIN-524の全世界を対象とした共同開発。本契約に基づき、当社はFIN-524のグローバル開発・販売権を獲得し、炎症性腸疾患に対する後継品への権利も有する。
Genevant Sciences Corporation	米国	肝線維症の進行阻止または回復を目的として当社が設計したRNAiオリゴヌクレオチドを肝星細胞へ送達するため、Genevant社のLNP (Lipid Nanoparticle) プラットフォームを活用することを目的とした提携およびライセンス契約。
Hemoshear Therapeutics	米国	肝臓の疾患において、HemoShear社の創薬基盤技術であるREVEAL-Tx™を活用し、新規創薬標的および治療法を開発。
NuBiyota	カナダ	Microbial Ecosystem Therapeuticを活用した治療薬の消化器領域の適応での提携。
Phathom Pharmaceuticals	米国	当社は米国、欧州、カナダにおけるvonoprazanに関する開発権と独占的販売権をPhathom Pharmaceuticals社に導出。当社はその対価として契約一時金と株式を受領し、さらに将来達成されたマイルストーンに応じて金銭と正味売上に基づくロイヤリティを受け取る。
Silence Therapeutics	英国	Silence Therapeuticsが有するGalNAC-siRNA技術プラットフォームにアクセスできる技術評価契約。評価の目的は、当社独自の標的の発現を阻害するGalNAC結合siRNAの特定。
Theravance Biopharma	米国	消化管運動障害治療薬候補である5-HT4受容体アゴニストTAK-954のグローバルにおけるライセンス、開発および販売の提携契約。
UCSD/Fortis Advisors	米国	UCSD (カリフォルニア大学サンディエゴ校) からのライセンス技術を活用し、好酸球性食道炎治療薬としてブデソニド経口製剤 (TAK-721) を開発。

● 血漿分画製剤

提携先	国	内容/目的
Halozyme	米国	HyQviaの拡散と吸収を高めることを目的としたHalozyme社の独自基盤技術ENHANZE™の導入。進行中の開発活動は、原発性の免疫不全を対象とする小児効能追加 (米国) および慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の効能取得を目的とするP-III試験。
Kamada	イスラエル	静脈投与α1-プロテアーゼインヒビター (Glassia) の開発および商用化の導入契約; Glassiaの米国、カナダ、オーストラリアおよびニュージーランドにおける独占的供給および流通; 継続中の市販後コミットメントの実施。
ProThera Biologics	米国	急性炎症状態を対象に新規血漿由来インターアルファ阻害タンパク質 (IAIP) による治療法を開発するためのグローバルライセンス契約。

## ● ワクチン

提携先	国	内容/目的
Biological E. Limited	インド	インド、中国および低・中所得国において安価な混合ワクチンの開発を促進するため、既存の麻しんワクチンおよび無細胞性百日せきワクチンの原末生産技術を当社からBiological E.社へ移管。
米国政府 The Biomedical Advanced Research and Development Authority (BARDA)	米国	当社が有するジカ熱ワクチン候補 (TAK-426) の米国での開発に関するパートナーシップ。当社は取得したデータを利用し、世界中の流行地域での承認申請に用いるオプション権を保有。
HilleVax, Inc. **	米国	ノロウイルスワクチン製品候補HIL-214 (旧名: TAK-214) の開発および商業化の推進を目的とする、バイオ医薬品企業HilleVax社の立ち上げに向けた、Frazier Healthcare Partners社との提携。HilleVax社は、契約一時対価、将来の現金マイルストーンおよび正味売上高に応じたロイヤルティを当社に支払うことを条件に、日本以外の全世界における独占的な開発および商業化の権利を有する (当社は日本における製品化の権利を保有)。
Novavax	米国	厚生労働省および日本医療研究開発機構 (AMED) からの助成対象となったCOVID-19ワクチン候補TAK-019 (NVX-CoV2373) の年間2億5千万回接種分以上の日本における開発、製造、商業化に関するNovavax社との提携。
Moderna	米国	Moderna社のCOVID-19ワクチンTAK-919 (mRNA-1273) 5千万回接種分を国内輸入・供給することに関する、厚生労働省、Moderna社との3者間契約 (2021年5月に厚生労働省から特例承認取得)。また、当社は早ければ2022年初頭から追加の5千万回接種分を輸入・供給する契約を締結し、両契約で計1億回接種分を供給します。本合意には、Moderna社による開発が成功し、厚生労働省より製造販売の承認が得られた場合には、新型コロナウイルスの変異株に対応するワクチンや追加接種に用いるワクチンを日本国内へ供給する可能性も含まれています。

‡ 2021年4月1日以降の新規契約

\* 2021年度第1四半期における後発事象 (2021年7月1日以降の進捗情報)

## ● その他/複数の疾患領域

提携先	国	内容/目的
Bridge Medicines	米国	Tri-Institutional Therapeutics Discovery Institute, Bay City Capital および Deerfield Management と提携し、Bridge Medicinesを設立。Tri-I TDIで探採された研究プロジェクトに対して、資金面、運用面、管理面での支援を行い、有効性やターゲットの創薬上の検証であるブルー・オブ・コンセプト (POC) 試験から臨床試験への移行まで継ぎ目なく実施。
京都大学iPS細胞研究所 (CiRA)	日本	当社重点領域疾患 (ニューロサイエンス、オンコロジー、消化器系を含む) でのiPS細胞の臨床応用およびiPS細胞のトランスレーショナルサイエンスが注目される追加領域での探索。
Charles River Laboratories	米国	Charles River Laboratories社が有するエンドツーエンドの創薬および安全性評価プラットフォームを活用し、当社の重点疾患領域における複数のプログラム群を候補化合物の段階まで進めるため提携。
Evotec SE	ドイツ	当社で増加する研究段階の遺伝子治療創薬プログラムをサポートするための研究提携。また、Evotec社と当社は、従来のアプローチでは対応が困難な標的に対して、RNAを標的とする低分子治療薬の探索および開発を目指し、複数のRNAを標的とする提携を開始。
HiFiBio	米国	消化器系疾患において新規の治療抗体を見出すためのハイスループット抗体探索基盤技術。
Massachusetts Institute of Technology	米国	人工知能 (AI) の開発と応用を促進し、人の健康と医薬品開発に貢献するためのMIT-Takedaプログラム。Abdul Latif Jameel Clinic for Health in Machine Learning (J-Clinic) に設置する新しいプログラムは、当社およびMITの専門知識を組み合わせ活用し、当社の3年間の投資によってサポートされる (2年間の延長の可能性あり)。
Portal Instruments	米国	針を使わない医療用デバイスの武田薬品の開発中または承認済み生物学的製剤への応用開発および商品化。
Schrödinger	米国	Schrödinger社の保有するin silico技術に基づく創薬力と当社の疾患領域に対する深い知見および構造生物学における専門性を融合した、複数の創薬標的に関する共同研究。
Seattle Collaboration	米国	SPRInT (Seattle Partnership for Research on Innovative Therapies) : Fred Hutchinson Cancer Research CenterおよびWashington大学による先進的発見のヒト疾患治療薬への展開の促進 (オンコロジー、消化器系疾患、ニューロサイエンスに注力)。
Stanford University	米国	革新的な治療薬をさらに効率的に開発するために、Stanford Alliance for Innovative Medicines (Stanford AIM) を設立。
Tri-Institutional Therapeutics Discovery Institute (Tri-I TDI)	米国	産学連携を推進し、革新的な医薬品を創出。
Twist Bioscience	米国	ヒトの体内に存在する配列のみを用いた合成抗体ファージディスプレイライブラリのパネルであるTwist社の「Library of Libraries」にアクセスするためのライセンス契約。両社は共同で、新しい抗体候補の発見、検証、最適化に取り組む。

● **終了した共同研究開発活動** ※ 2021年4月1日以降の情報

提携先	国	内容/目的
CoVig-19 Plasma Alliance	—	当社およびCSL Behring社が立ち上げた、血漿分画製剤のCOVID-19治療薬候補を開発するためのアライアンス。COVID-19により入院している成人患者さんの治療薬となり得るノーブランドの高度免疫グロブリン（CoVig-19）製剤を開発し、臨床現場に届けることを目標としている。
Maverick Therapeutics	米国	T細胞によるがん細胞認識および攻撃能力の有効性を向上させるために開発されたT細胞誘導療法の基盤技術開発。本契約に基づき、当社は契約締結（2017年）の5年後にMaverick Therapeutics社を買収する独占的オプション権を有し、2021年4月に権利を行使。
Samsung Bioepis	韓国	アンメットニーズの高い疾患領域における複数の新規生物学的治療法に共同で資金を提供し、共同開発を行う戦略的提携契約。本プログラムの最初の治療薬候補は、重度の急性膵炎の治療を目的としたTAK-671。

■ **ホームページで開示している臨床試験情報**

臨床試験情報は自社ホームページの英文サイト（<https://clinicaltrials.takeda.com/>）で、日本における情報については和文サイト（<https://www.takeda.com/what-we-do/research-and-development/takeda-clinical-trial-transparency/>）で公開しています。当社では、全世界の医療関係者および患者さんなど多くの方々に臨床試験情報を公開することにより、当社製品のより一層の適正使用に資するものと考えています。

## 2. 補足財務情報

### 地域別売上収益

#### ■ 累計

(億円)	財務報告ベース *1				実質ベース*1
	FY20Q1	FY21Q1	YOY		YOY
売上収益合計	8,019	9,496	1,478	18.4%	3.8%
日本 *2	1,440	2,590	1,149	79.8%	1.0%
売上収益比率	18.0%	27.3%	9.3pt		
米国	4,026	4,122	96	2.4%	0.5%
同比率	50.2%	43.4%	△6.8pt		
欧州およびカナダ	1,576	1,787	212	13.4%	11.1%
同比率	19.6%	18.8%	△0.8pt		
成長新興国 *3	976	997	20	2.1%	10.8%
同比率	12.2%	10.5%	△1.7pt		
アジア（日本を除く）	369	403	34	9.3%	13.6%
同比率	4.6%	4.2%	△0.4pt		
中南米	308	301	△7	△2.3%	24.4%
同比率	3.8%	3.2%	△0.7pt		
ロシア/CIS	130	123	△7	△5.4%	△14.9%
同比率	1.6%	1.3%	△0.3pt		
その他 *4	169	170	0	0.3%	7.3%
同比率	2.1%	1.8%	△0.3pt		
うち知的財産権収益・役務収益 *2	181	1,577	1,396	773.2%	

\*1 売上収益は、顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類している。

\*2 FY21Q1は、日本における糖尿病治療剤ポートフォリオの譲渡価額1,330億円を含む。

\*3 成長新興国：グロース&エマージング マーケッツ (GEM)であり、アジア（日本を除く）、中南米、ロシア/CIS、中東、オセアニア、アフリカが含まれている。

\*4 「その他」には、中東・オセアニア・アフリカが含まれている。



## ◆四半期

## 財務報告ベース \*1

(億円)	FY20				FY21							
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	YOY	Q2	YOY	Q3	YOY	Q4	YOY
売上収益合計	8,019	7,889	8,368	7,703	9,496	18.4%						
日本 *2	1,440	1,383	1,527	1,246	2,590	79.8%						
売上収益比率	18.0%	17.5%	18.3%	16.2%	27.3%							
米国	4,026	3,835	4,028	3,790	4,122	2.4%						
同比率	50.2%	48.6%	48.1%	49.2%	43.4%							
欧州およびカナダ	1,576	1,696	1,728	1,662	1,787	13.4%						
同比率	19.6%	21.5%	20.7%	21.6%	18.8%							
成長新興国 *3	976	975	1,084	1,005	997	2.1%						
同比率	12.2%	12.4%	13.0%	13.0%	10.5%							
アジア（日本を除く）	369	414	409	371	403	9.3%						
同比率	4.6%	5.2%	4.9%	4.8%	4.2%							
中南米	308	282	364	262	301	△2.3%						
同比率	3.8%	3.6%	4.4%	3.4%	3.2%							
ロシア/CIS	130	86	171	188	123	△5.4%						
同比率	1.6%	1.1%	2.0%	2.4%	1.3%							
その他 *4	169	193	140	183	170	0.3%						
同比率	2.1%	2.4%	1.7%	2.4%	1.8%							
うち知的財産権収益・役務収益 *2	181	282	228	234	1,577	773.2%						

\*1 売上収益は、顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類している。

\*2 FY21Q1は、日本における糖尿病治療剤ポートフォリオの譲渡価額1,330億円を含む。

\*3 成長新興国：グロース&エマージング マーケッツ (GEM)であり、アジア（日本を除く）、中南米、ロシア/CIS、中東、オセアニア、アフリカが含まれている。

\*4 「その他」には、中東・オセアニア・アフリカが含まれている。



## 主要製品別売上高（財務報告ベース 対前年同期比）

## ■ 累計

(億円)	財務報告ベース			米国		日本		欧州および カナダ		成長 新興国*6		米国 以外	
	FY20Q1	FY21Q1	YOY		YOY		YOY		YOY		YOY		YOY
<b>消化器系疾患</b>	<b>1,869</b>	<b>2,105</b>	<b>12.6%</b>	<b>1,176</b>	<b>3.3%</b>	<b>256</b>	<b>15.9%</b>	<b>471</b>	<b>36.1%</b>	<b>160</b>	<b>23.6%</b>	<b>42</b>	<b>20.5%</b>
エンティビオ*1	1,012	1,254	23.9%	837	17.1%	25	26.6%	327	35.6%	64	78.9%		
タケキャブ*2	202	243	20.1%	—	-	229	15.0%	—	-	14	346.2%		
GATTEX/REVESTIVE	175	181	3.7%	152	△1.1%	—	-	27	43.5%	2	3.6%		
DEXILANT	136	108	△20.7%	60	△31.3%	—	-	22	18.3%	25	△14.3%		
PANTOLOC/CONTROLOC*3	92	104	13.8%	7	39.8%	—	-	67	37.4%	31	△19.1%		
リアルダ/MEZAVANT*4	55	64	16.2%	22	8.6%							42	20.5%
PENTASA	62	48	△21.6%	48	△21.6%								
AMITIZA	63	21	△65.8%	20	△67.8%			—	-	1	133.0%		
RESOLOR/MOTEGRITY	27	32	16.9%	22	10.2%	—	-	10	43.4%	—	△100.0%		
ALOFISEL	0	4	3,556.0%	—	-	—	-	3	4,796.0%	1	1,513.3%		
その他	45	45	0.0%	7	△41.8%	2	△7.1%	15	26.6%	21	10.8%		
<b>希少疾患</b>	<b>1,550</b>	<b>1,555</b>	<b>0.3%</b>	<b>712</b>	<b>△3.9%</b>	<b>75</b>	<b>△2.4%</b>	<b>386</b>	<b>11.8%</b>	<b>241</b>	<b>△9.0%</b>	<b>141</b>	<b>15.2%</b>
<b>希少代謝性疾患</b>	<b>399</b>	<b>443</b>	<b>10.9%</b>	<b>94</b>	<b>5.5%</b>	<b>7</b>	<b>△2.6%</b>	<b>118</b>	<b>17.1%</b>	<b>83</b>	<b>3.7%</b>	<b>141</b>	<b>15.2%</b>
エラブレース	176	186	5.5%	50	0.1%	4	△5.1%	67	13.9%	64	2.5%		
リプレガル*4	122	141	15.2%	—	-							141	15.2%
ビプリブ	93	105	11.9%	44	13.8%	3	0.8%	39	12.7%	18	7.9%		
NATPARA/NATPAR	7	12	56.8%	△0	-	—	-	12	64.6%	0	45.1%		
<b>希少血液疾患</b>	<b>768</b>	<b>722</b>	<b>△5.9%</b>	<b>333</b>	<b>△0.4%</b>	<b>64</b>	<b>△2.6%</b>	<b>180</b>	<b>△6.0%</b>	<b>146</b>	<b>△17.6%</b>		
アドベイト	337	307	△8.9%	151	△11.1%	16	△5.4%	71	△13.0%	69	0.6%		
アディノベイト	153	154	0.6%	68	△5.5%	37	△3.4%	36	6.1%	12	50.6%		
ファイバ*5	129	114	△11.3%	39	60.3%	2	△8.8%	32	△2.3%	41	△40.7%		
RECOMBINATE	37	37	△0.9%	35	4.9%	—	-	2	△8.0%	0	△91.1%		
HEMOFIL/IMMUNATE/IMMUNINE*5	44	33	△25.6%	9	12.8%	—	-	10	△36.7%	14	△31.4%		
他のPDT製品*5*7	9	9	△1.1%	0	-	—	-	8	15.6%	0	△81.4%		
その他*8	59	69	16.4%	31	15.1%	9	8.5%	21	16.3%	8	32.8%		
<b>遺伝性血管性浮腫</b>	<b>383</b>	<b>390</b>	<b>1.8%</b>	<b>285</b>	<b>△10.1%</b>	<b>4</b>	<b>2.9%</b>	<b>89</b>	<b>64.8%</b>	<b>13</b>	<b>48.2%</b>		
TAKHZYRO	232	255	9.6%	199	△5.7%	—	-	49	140.6%	6	572.2%		
フィラジル	81	69	△15.1%	34	△34.7%	4	2.9%	26	36.1%	5	△15.7%		
CINRYZE*5	59	56	△5.7%	41	△4.9%	—	-	13	△5.8%	1	△26.9%		
KALBITOR	11	11	2.8%	11	2.8%	—	-	—	-	—	-		

\*1 国内製品名：エンティビオ

\*2 合剤、バック製剤を含む

\*3 一般名：pantoprazole

\*4 ライセンスアウト品：導出先との契約により、地域別売上高は開示しておりません

\*5 血漿分画製剤

\*6 グローブ&amp;エマージング マーケッツ (GEM)であり、アジア（日本を除く）、中南米、ロシア/CIS、中東、オセアニア、アフリカを含む

\*7 その他PDT製品（希少血液疾患）は、BEBULIN、PROTHROMPLEXおよびFACTOR VIIを含む

\*8 その他（希少血液疾患）は、ボンベンディ、OBIZUR、リクスビス、アグリリン/XAGRID、Other Hemophiliaを含む

## ■ 累計

(億円)	財務報告ベース			米国		日本		欧州およびカナダ		成長新興国*6		米国以外	
	FY20Q1	FY21Q1	YOY		YOY		YOY		YOY		YOY		YOY
<b>血漿分画製剤（免疫疾患）</b>	<b>1,053</b>	<b>1,072</b>	<b>1.8%</b>	<b>703</b>	<b>△5.4%</b>							<b>369</b>	<b>19.2%</b>
免疫グロブリン *1	851	816	△4.1%	590	△10.7%							226	19.0%
アルブミン *1	130	178	36.8%	53	100.9%							125	20.6%
その他 *1 *7	72	78	9.1%	60	7.8%							18	13.5%
<b>オンコロジー</b>	<b>1,080</b>	<b>1,214</b>	<b>12.4%</b>	<b>604</b>	<b>20.7%</b>	<b>210</b>	<b>△11.0%</b>	<b>212</b>	<b>15.4%</b>	<b>166</b>	<b>23.7%</b>	<b>21</b>	<b>△15.9%</b>
ベルケイド *2	242	301	24.6%	294	27.3%							8	△30.8%
リュープリン	274	262	△4.3%	48	128.5%	75	△41.4%	97	17.7%	42	△1.7%		
ニンラー口	229	244	6.3%	154	△1.3%	15	19.3%	35	3.5%	41	46.0%		
アドセトリス	151	172	14.2%			28	△2.4%	70	13.2%	75	22.9%		
アイクルシグ *2	92	104	12.3%	91	15.0%							13	△3.6%
ベクティビックス	62	62	0.1%			62	0.1%						
アルンプリグ	20	31	54.4%	17	18.0%	2	-	8	89.6%	4	160.4%		
その他	9	38	300.0%	1	-	28	418.7%	3	25.9%	5	231.1%		
<b>ニューロサイエンス（神経精神疾患）</b>	<b>1,069</b>	<b>1,134</b>	<b>6.1%</b>	<b>873</b>	<b>8.7%</b>	<b>75</b>	<b>△39.9%</b>	<b>159</b>	<b>37.0%</b>	<b>28</b>	<b>10.1%</b>		
バイバンス*3	660	792	20.0%	652	16.6%	0	-	115	48.3%	25	7.8%		
トリンテリックス	169	179	5.9%	167	0.9%	11	273.0%			-	-		
インチュニブ	56	33	△42.5%	△0	-	4	△89.1%	27	44.6%	2	59.1%		
ADDERALL XR	53	39	△24.9%	35	△27.5%	-	-	4	4.0%	-	-		
ロゼレム	30	32	6.9%	1	485.1%	31	4.1%	-	-	0	8.5%		
その他 *8	100	59	△41.2%	18	△29.7%	29	△51.1%	12	△21.7%	0	△51.2%		
<b>その他 *4</b>	<b>1,398</b>	<b>2,416</b>	<b>72.8%</b>										
アジルバ *5	209	226	8.6%	-	-	226	8.6%	-	-	-	-		
ロトリガ	81	78	△3.0%			78	△3.0%						
アイファガン	40	46	15.0%	-	-	46	15.0%	-	-	-	-		
ホスレノール	32	34	4.7%	5	△30.2%							28	15.9%
ACTOVEGIN	17	32	87.2%	-	-	-	-	2	222.9%	30	81.8%		

\*1 血漿分画製剤

\*2 ライセンスアウト品：導出先との契約により、地域別売上高は開示していません

\*3 国内製品名：ピバンセ

\*4 FY21Q1は、日本における糖尿病治療剤ポートフォリオの譲渡価額1,330億円を含む

\*5 合剤およびパック製剤を含む

\*6 グロース&amp;エマーシング マーケッツ (GEM)であり、アジア（日本を除く）、中南米、ロシア/CIS、中東、オセアニア、アフリカを含む

\*7 その他（血漿分画製剤（免疫疾患））は、ARALAST、GLASSIA、CEPROTIN、アンチトロンピンIII、献血ノンスロンおよびその他を含む

\*8 その他（ニューロサイエンス（神経精神疾患））は、レミニール、コパキソン、アジレクト、MYDAYIS、ブコラム、EQUASYMおよびCARBATROLを含む

## 主要製品別売上高（財務報告ベースおよび実質ベース成長率）

	FY20 財務報告ベース				FY21 財務報告ベースおよび実質ベース成長率															
	Q1	Q2	Q3	Q4	YOY			YOY				YOY				YOY				
					Q1	財務報告 ベース	実質 ベース	Q2	財務報告 ベース	実質 ベース	YTD 実質ベース	Q3	財務報告 ベース	実質 ベース	YTD 実質ベース	Q4	財務報告 ベース	実質 ベース	YTD 実質ベース	
<b>消化器系疾患</b>	<b>1,869</b>	<b>1,929</b>	<b>2,090</b>	<b>1,890</b>	<b>2,105</b>	<b>12.6%</b>	<b>7.9%</b>													
エンティビオ*1	1,012	1,057	1,123	1,100	1,254	23.9%	18.2%													
タケキャブ *2	202	197	242	207	243	20.1%	19.5%													
GATTEX/REVESTIVE	175	157	169	144	181	3.7%	0.3%													
DEXILANT	136	148	151	121	108	△20.7%	△24.5%													
PANTOLOC/ CONTROLOC *3	92	123	109	107	104	13.8%	3.7%													
リアルダ/MEZAVANT	55	61	71	68	64	16.2%	7.0%													
PENTASA	62	55	62	53	48	△21.6%	△23.2%													
AMITIZA	63	62	64	24	21	△65.8%	△66.5%													
RESOLOR/MOTTEGRITY	27	22	36	27	32	16.9%	11.4%													
ALOFISEL	0	3	3	2	4	3,556.0%	3,222.0%													
その他	45	43	61	37	45	0.0%	△6.2%													
<b>希少疾患</b>	<b>1,550</b>	<b>1,404</b>	<b>1,513</b>	<b>1,450</b>	<b>1,555</b>	<b>0.3%</b>	<b>△3.4%</b>													
<b>希少代謝性疾患</b>	<b>399</b>	<b>397</b>	<b>422</b>	<b>408</b>	<b>443</b>	<b>10.9%</b>	<b>6.6%</b>													
エラブレース	176	167	172	173	186	5.5%	2.5%													
リブレガル	122	128	139	129	141	15.2%	10.2%													
ビプリブ	93	95	100	97	105	11.9%	6.9%													
NATPARA/NATPAR	7	8	10	10	12	56.8%	39.1%													
<b>希少血液疾患</b>	<b>768</b>	<b>661</b>	<b>758</b>	<b>712</b>	<b>722</b>	<b>△5.9%</b>	<b>△9.4%</b>													
アドベイト	337	298	337	314	307	△8.9%	△12.5%													
アディノベイト	153	142	143	143	154	0.6%	△3.3%													
ファイバ *4	129	77	137	103	114	△11.3%	△12.6%													
RECOMBINATE	37	32	35	29	37	△0.9%	△3.7%													
HEMOFIL/IMMUNATE / IMMUNINE*4	44	49	39	54	33	△25.6%	△29.4%													
他のPDT製品 *4 *5	9	8	9	9	9	△1.1%	△10.2%													
その他 *6	59	54	58	60	69	16.4%	10.4%													
<b>遺伝性血管性浮腫</b>	<b>383</b>	<b>346</b>	<b>334</b>	<b>330</b>	<b>390</b>	<b>1.8%</b>	<b>△1.7%</b>													
TAKHZYRO	232	205	221	208	255	9.6%	6.0%													
フィラジル	81	71	50	67	69	△15.1%	△18.3%													
CINRYZE *4	59	61	52	46	56	△5.7%	△9.2%													
KALBITOR	11	9	11	8	11	2.8%	0.8%													

\*1 国内製品名：エンタイビオ

\*2 合剤、パック製剤を含む

\*3 一般名：pantoprazole

\*4 血漿分画製剤

\*5 その他PDT製品（希少血液疾患）は、BEBULIN、PROTHROMPLEXおよびFACTOR VIIを含む

\*6 その他（希少血液疾患）は、ボンベンディ、OBIZUR、リクスビス、アグリリン/XAGRID、Other Hemophiliaを含む

	FY20 財務報告ベース				FY21 財務報告ベースおよび実質ベース成長率																		
	Q1	Q2	Q3	Q4	YOY			YOY				YOY				YOY							
					Q1	財務報告 ベース	実質 ベース	Q2	財務報告 ベース	実質 ベース	YTD 実質ベース	Q3	財務報告 ベース	実質 ベース	YTD 実質ベース	Q4	財務報告 ベース	実質 ベース	YTD 実質ベース				
<b>血漿分画製剤（免疫疾患）</b>	<b>1,053</b>	<b>1,006</b>	<b>1,071</b>	<b>1,073</b>	<b>1,072</b>	<b>1.8%</b>	<b>△1.8%</b>																
免疫グロブリン *1	851	776	854	868	816	△4.1%	△6.9%																
アルブミン *1	130	156	150	140	178	36.8%	26.4%																
その他 *1 *5	72	75	67	65	78	9.1%	6.0%																
<b>オンコロジー</b>	<b>1,080</b>	<b>1,021</b>	<b>1,084</b>	<b>980</b>	<b>1,214</b>	<b>12.4%</b>	<b>8.9%</b>																
ベルケイド	242	258	259	252	301	24.6%	22.1%																
リユープリン	274	225	254	201	262	△4.3%	△8.8%																
ニンラーロ	229	214	235	195	244	6.3%	2.0%																
アドセトリス	151	155	138	150	172	14.2%	8.8%																
アイクルシグ	92	76	94	79	104	12.3%	10.0%																
ベクティビックス	62	57	65	54	62	0.1%	0.1%																
アルンプリグ	20	23	22	23	31	54.4%	47.3%																
その他	9	13	17	24	38	300.0%	495.2%																
<b>ニューロサイエンス（神経精神疾患）</b>	<b>1,069</b>	<b>1,009</b>	<b>1,073</b>	<b>1,022</b>	<b>1,134</b>	<b>6.1%</b>	<b>2.9%</b>																
バイバンス*2	660	666	698	691	792	20.0%	15.6%																
トリンテリックス	169	181	177	162	179	5.9%	4.0%																
インチュニブ	56	33	59	56	33	△42.5%	△49.5%																
ADDERALL XR	53	37	44	44	39	△24.9%	△27.4%																
ロゼレム	30	29	36	25	32	6.9%	7.1%																
その他 *6	100	63	60	44	59	△41.2%	△41.1%																
<b>その他 *3</b>	<b>1,398</b>	<b>1,520</b>	<b>1,535</b>	<b>1,287</b>	<b>2,416</b>	<b>72.8%</b>	<b>9.0%</b>																
アジルバ *4	209	191	229	194	226	8.6%	8.6%																
ロトリガ	81	76	88	73	78	△3.0%	△3.0%																
アイファガン	40	37	46	37	46	15.0%	15.0%																
ホスレノール	32	33	37	33	34	4.7%	△3.2%																
ACTOVEGIN	17	32	34	24	32	87.2%	81.9%																

\*1 血漿分画製剤

\*2 国内製品名：ピバンセ

\*3 FY21Q1は、日本における糖尿病治療剤ポートフォリオの譲渡価額1,330億円を含む

\*4 合剤およびバック製剤を含む

\*5 その他（血漿分画製剤（免疫疾患））は、ARALAST、GLASSIA、CEPROTIN、アンチトロンピンIII、献血ノンスロンおよびその他を含む

\*6 その他（ニューロサイエンス（神経精神疾患））は、レミニール、コパキソン、アジレクト、MYDAYIS、プロラム、EQUASYMおよびCARBATROLを含む

## 主要品目見込

FY21財務ベース公表予想および実質ベース成長率は、2021年5月11日に公表したのから変更はありません

(億円)	FY20財務ベース	FY21財務ベース公表予想 (2021年5月11日公表)		FY21実質ベース 成長率(2021年 5月11日公表)
	年間	年間	YOY	
<b>消化器系疾患</b>	<b>7,778</b>	<b>8,780</b>	<b>1,002</b> <b>13%</b>	<b>10%</b>
エンティビオ*1	4,293	5,380	1,087 25%	22%
タケキャブ*2	848	940	92 11%	11%
GATTEX/REVESTIVE	646	790	144 22%	20%
DEXILANT	556	540	△16 △3%	△6%
PANTOLOC/CONTROLOC*3	431	370	△61 △14%	△19%
リアルダ/MEZAVANT	255	190	△65 △25%	△25%
PENTASA	231	190	△41 △18%	△20%
AMITIZA	212	50	△162 △76%	△79%
RESOLOR/MOTEGRITY	112	120	8 7%	△1%
ALOFISEL	8	30	22 283%	238%
その他	186	180	△6 △3%	△8%
<b>希少疾患</b>	<b>5,917</b>			
<b>希少代謝性疾患</b>	<b>1,626</b>	<b>1,730</b>	<b>104</b> <b>6%</b>	<b>2%</b>
エラプレース	688	710	22 3%	△1%
リプレガル	518	560	42 8%	3%
ビプリブ	385	410	25 6%	5%
NATPARA/NATPAR	36	50	14 41%	38%
<b>希少血液疾患</b>	<b>2,898</b>	<b>2,730</b>	<b>△168</b> <b>△6%</b>	<b>△10%</b>
アドベイト	1,285	1,760	△106 △6%	△10%
アディノベイト	581			
ファイバ*4	445	350	△95 △21%	△26%
RECOMBINATE	134	120	△14 △10%	△10%
HEMOFIL/IMMUNATE / IMMUNINE*4	187	170	△17 △9%	△13%
他のPDT製品*4*5	35	50	15 44%	41%
その他*6	232	280	48 21%	15%
<b>遺伝性血管性浮腫</b>	<b>1,393</b>		<b>0% to +10%</b>	<b>0% to +10%</b>
TAKHZYRO	867		+20% to +30%	+20% to +30%
フィラジル	268	150	△118 △44%	△46%
CINRYZE*4	219	170	△49 △22%	△23%
KALBITOR	39	20	△19 △49%	△40%

\*1 国内製品名：エンタイビオ

\*2 合剤、パック製剤を含む

\*3 一般名：pantoprazole

\*4 血漿分画製剤

\*5 その他PDT製品（希少血液疾患）は、BEBULIN、PROTHROMPLEXおよびFACTOR VIIを含む

\*6 その他（希少血液疾患）は、ボンベンディ、OBIZUR、リクスビス、アグリリン/XAGRID、OCTOFACTOR、COAGIL-VII、INNONAFACTOR、Other Hemophiliaを含む

FY20財務ベース年間平均レート：1米ドル=106円、1ユーロ=123円、1ロシアルーブル=1.4円、1ブラジルレアル=19.6円、1中国元=15.5円

FY21財務ベース公表予想の前提為替レート：1米ドル=108円、1ユーロ=131円、1ロシアルーブル=1.4円、1ブラジルレアル=19.9円、1中国元=16.8円

FY21実質ベース成長率の前提為替レート：1米ドル=106円、1ユーロ=123円、1ロシアルーブル=1.4円、1ブラジルレアル=19.6円、1中国元=15.5円

(億円)	FY20財務ベース	FY21財務ベース公表予想 (2021年5月11日公表)			FY21実質ベース 成長率 (2021年 5月11日公表)
	年間	年間	YOY		
<b>血漿分画製剤 (免疫疾患)</b>	<b>4,204</b>	<b>+10% to +20%</b>			<b>+10% to +20%</b>
免疫グロブリン *1	3,349	+5% to +10%			+5% to +10%
アルブミン *1	576	+>30%			+>30%
その他 *1 *5	279	0% to +10%			0% to +10%
<b>オンコロジー</b>	<b>4,165</b>	<b>4,550</b>	<b>385</b>	<b>9%</b>	<b>7%</b>
ベルケイド	1,011	830	△181	△18%	△20%
リユープリン	954	1,040	86	9%	7%
ニンラーロ	874	970	96	11%	8%
アドセトリス	594	700	106	18%	14%
アイクルシグ	342	390	48	14%	11%
ベクティビックス	238	220	△18	△8%	△7%
アルンプリグ	88	160	72	82%	80%
その他	64	240	176	276%	256%
<b>ニューロサイエンス (神経 精神疾患)</b>	<b>4,173</b>	<b>4,340</b>	<b>167</b>	<b>4%</b>	<b>2%</b>
バイバンス*2	2,715	2,930	215	8%	5%
トリンテリックス	689	820	131	19%	17%
インチュニブ	204	170	△34	△17%	△20%
ADDERALL XR	178	100	△78	△44%	△45%
ロゼレム	120	110	△10	△8%	△3%
その他 *6	267	210	△57	△21%	△17%
<b>その他 *3</b>	<b>5,741</b>	<b>△10% to 0%</b>			<b>△10% to 0%</b>
アジルバ *4	822	680	△142	△17%	△16%
ロトリガ	318	290	△28	△9%	△8%
アイファガン	159	120	△39	△25%	△22%
ホスレノール	135	110	△25	△18%	△17%
ACTOVEGIN	107	110	3	3%	7%

\*1 血漿分画製剤

\*2 国内製品名: ビバンセ

\*3 FY21は、日本における糖尿病治療剤ポートフォリオの譲渡価額1,330億円を含む

\*4 合剤、パック製剤を含む

\*5 その他 (血漿分画製剤 (免疫疾患)) は、ARALAST、GLASSIA、CEPROTIN、アンチトロンビンIII、献血ノンスロンおよびその他を含む

\*6 その他 (ニューロサイエンス (神経精神疾患)) は、レミニール、コパキソン、アジレクト、MYDAYIS、ブコラム、EQUASYMおよびCARBATROLを含む

FY20財務ベース年間平均レート: 1米ドル=106円、1ユーロ=123円、1ロシアルーブル=1.4円、1ブラジルリアル=19.6円、1中国元=15.5円

FY21財務ベース公表予想の前提為替レート: 1米ドル=108円、1ユーロ=131円、1ロシアルーブル=1.4円、1ブラジルリアル=19.9円、1中国元=16.8円

FY21実質ベース成長率の前提為替レート: 1米ドル=106円、1ユーロ=123円、1ロシアルーブル=1.4円、1ブラジルリアル=19.6円、1中国元=15.5円

## 為替レート

公表予想レートおよび1%為替円安影響（2021年4月-2022年3月）は、2021年5月11日公表予想から変更はありません

通貨	(円)			(億円)			
	平均レート			1%為替円安影響（2021年4月－2022年3月） （2021年5月11日公表）			
	FY20Q1 （4-6月）	FY21Q1 （4-6月）	FY21公表予想 （4-3月） （2021年5月 11日公表）	売上収益	Core 営業利益	営業利益	当期利益
ドル	107	110	108	+170.7	+69.2	+29.4	+16.7
ユーロ	118	132	131	+45.0	△19.5	△31.4	△27.0
ループル	1.5	1.5	1.4	+3.7	+2.5	+2.1	+1.7
人民元	15.1	17.0	16.8	+10.7	+6.0	+5.9	+4.4
レアル	20.2	20.2	19.9	+5.8	+3.8	+3.7	+2.5



## 資本的支出、減価償却費及び償却費、減損損失

資本的支出、減価償却費及び償却費、減損損失は、2021年5月11日公表予想から変更はありません

						(億円)
	FY20	FY20Q1	FY21Q1	YOY		FY21公表予想 (2021年5月 11日公表)
資本的支出*	2,365	405	423	18	4.5%	2,100 -2,600
有形固定資産の増加額	1,112	231	298	67	29.0%	
無形資産の増加額	1,253	173	125	△49	△28.2%	
* キャッシュベース						
減価償却費及び償却費	5,580	1,416	1,420	5	0.3%	5,560
有形固定資産の減価償却費* (A)	1,244	315	324	9	3.0%	
無形資産の償却費 (B)	4,336	1,101	1,096	△5	△0.4%	
うち、製品に係る償却費 (C)	4,053	1,023	1,028	5	0.5%	4,060
うち、製品以外に係る償却費 (D)	283	78	68	△10	△12.5%	
*投資不動産に係る減価償却費は含まない。						
減価償却費及び償却費 (製品に係る償却費を除く) (A)+(D)	1,527	392	392	△0	△0.1%	1,500
減損損失	255	75	1	△74	△99.3%	
うち、製品に係る減損損失	166	19	—	△19	△100.0%	500
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	4,219	1,043	1,028	△14	△1.4%	4,560

### 3. 調整表

#### 2021年度第1四半期 財務ベース売上収益からCore売上収益/実質的な売上収益への調整表

(億円)	2020年度 第1四半期 (4-6月)	2021年度 第1四半期 (4-6月)	対前年同期	
<b>売上収益</b>	<b>8,019</b>	<b>9,496</b>	<b>+1,478</b>	<b>+ 18.4%</b>
日本の糖尿病治療剤ポートフォリオ売却*2	0	-1330.43	△1,330	△16.6pp
<b>Core売上収益</b>	<b>8,019</b>	<b>8,166</b>	<b>+147</b>	<b>+ 1.8%</b>
為替影響*1				△3.9pp
事業等の売却影響*2				+5.8pp
地域ポートフォリオ				+1.6pp
日本の糖尿病治療剤ポートフォリオ				+1.1pp
TACHOSIL				+0.4pp
その他				+2.8pp
<b>実質的な売上収益の成長</b>				<b>+ 3.8%</b>

\*1 為替影響は2021年度および2020年度に計画レートを適用して算出しています。

\*2 主な調整項目は以下の通りです。

- 2020年11月に売却が完了したアジア太平洋における一部の一般用医薬品および非中核資産に係る2020年度第1四半期の売上収益を控除して調整しております。
- 2020年12月に売却が完了した主に欧州における一部の非中核資産である医療用医薬品に係る2020年度第1四半期の売上収益を控除して調整しております。
- 2021年1月に売却が完了した中南米における一部の一般用医薬品および非中核資産に係る2020年度第1四半期の売上収益を控除して調整しております。
- 2021年1月に売却が完了した「TachoSil」（手術用パッチ剤）の2020年度第1四半期の売上を控除して調整しております。
- 2021年3月に売却が完了した主に欧州における一部の一般用医薬品および非中核資産に係る2020年度第1四半期の売上収益を控除して調整しております。
- 2021年3月に売却が完了した従来子会社であった武田コンシューマーヘルスケア株式会社の2020年度第1四半期の売上収益を控除して調整しております。
- 2021年4月1日に売却が完了した日本における糖尿病治療剤ポートフォリオ（ネシーナ錠、リオベル配合錠、イニシンク配合錠、ザファテック錠）に係る2020年度第1四半期の売上を控除して調整しております。また、売却完了により計上された非定期的な譲渡価額1,330億円は2021年度第1四半期の売上収益から控除して調整しております。
- 売却が公表され、2021年度上期中の売却完了を見込んでいた中国における一部の非中核資産である医療用医薬品に係る2021年度第1四半期と2020年度第1四半期の売上収益を控除して調整しております。

## 2021年度第1四半期 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整					CORE	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Growth (実質ベースの成長)	
		無形資産に係る償却費	無形資産に係る減損損失	その他の営業収益/費用	日本の糖尿病治療剤ポートフォリオ売却	アイルランド税務評価*1 その他		為替影響	事業等の売却影響		
売上収益	9,496					△1,330	8,166	△315	△39	+3.8 %	
売上原価	△2,413					6	128	△2,279	106	14	
売上総利益	7,083					△1,324	128	5,887	△209	△25	
販売費及び一般管理費	△2,198					10	9	△2,180	87		
研究開発費	△1,225						7	△1,218	41		
製品に係る無形資産償却費	△1,028	1,028						—			
製品に係る無形資産減損損失	—							—			
その他の営業収益	111			△108			△4	—			
その他の営業費用	△258			251			7	—			
営業利益	2,486	1,028		143		△1,314	147	2,489	△81	△25	△2.1 %
対売上収益比率	26.2 %							30.5 %			30.5 %*2
金融損益	△252						△25	△277	13		
持分法損益	△4						23	20	1		
税引前当期利益	2,230	1,028		143		△1,314	145	2,232	△67	△25	
法人所得税費用	△853	△229		△48		402	627	△365	△466	14	8
非支配持分	△0							△0	0		
当期利益	1,377	799		95		△912	627	△220	1,766	△53	△17
EPS (円)	88							113	△3	△1	+3.9 %
株式数 (百万)	1,565							1,565			1,563

\*1 2014年にShire社がAbbVie社からの買収申し出の取下げに関連して受領した違約金に対するアイルランドでの課税を巡る税務評価から生じた税金および利息の合計と関連する税務便益5億円との純額627億円です。

\*2 実質的なCore営業利益率

## 2020年度第1四半期 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整					CORE	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Growth (実質ベースの成長)
		無形資産に係る償却費	無形資産に係る減損損失	その他の営業収益/費用	テバ合併会社に係る会計処理影響	その他		為替影響	事業等の売却影響	
売上収益	8,019						8,019	△7	△487	+0.9 %
売上原価	△2,381					266	△2,115	△65	135	
売上総利益	5,638					266	5,903	△71	△352	
販売費及び一般管理費	△2,024			0		△3	△2,026	5	35	
研究開発費	△1,068			△1		1	△1,068	8	2	
製品に係る無形資産償却費	△1,023	1,023					—			
製品に係る無形資産減損損失	△19		19				—			
その他の営業収益	637			△32	△4	△602	—			
その他の営業費用	△468			282		186	—			
営業利益	1,673	1,023	19	249	△4	△152	2,809	△59	△315	+11.2 %
対売上収益比率	20.9 %						35.0 %			32.4 %*
金融損益	△272					△11	△283	△4	△0	
持分法損益	△98					106	8	△0		
税引前当期利益	1,303	1,023	19	249	102	△163	2,534	△62	△315	
法人所得税費用	△478	△197	△3	△26	△31	108	△627	16	88	
非支配持分	△0						△0	△0		
当期利益	825	826	16	223	71	△55	1,906	△47	△227	
EPS (円)	53						122	△3	△15	+8.7 %
株式数 (百万)	1,559						1,559			1,558

\* 実質的なCore営業利益率

**フリー・キャッシュ・フロー**

(億円)	2020年度 第1四半期 (4-6月)	2021年度 第1四半期 (4-6月)	対前年同期	
<b>当期利益</b>	<b>825</b>	<b>1,377</b>	<b>+552</b>	<b>+66.9%</b>
減価償却費、償却費及び減損損失	1,490	1,430	△60	
運転資本増減（△は増加）	△534	△877	△343	
法人税等の支払額	△515	△359	+156	
その他	191	97	△94	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,459</b>	<b>1,669</b>	<b>+210</b>	<b>+14.4%</b>
ワクチン運営のための制限付き預り金の調整	—	59	+59	
有形固定資産の取得による支出	△231	△298	△67	
有形固定資産の売却による収入	0	1	+1	
無形資産の取得による支出	△173	△125	+49	
投資の取得による支出	△35	△33	+3	
投資の売却、償還による収入	444	5	△440	
事業売却による収入（処分した現金及び現金同等物控除後）	—	21	+21	
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>1,463</b>	<b>1,299</b>	<b>△164</b>	<b>△11.2%</b>

## 2021年度第1四半期 LTM 当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整

(億円)	2020年度 通期 (4-3月)	2020年度 第1四半期 (4-6月)	2021年度 第1四半期 (4-6月)	2021年度 第1四半期 LTM <sup>*1</sup> (7-6月)
<b>当期利益</b>	<b>3,762</b>	<b>825</b>	<b>1,377</b>	<b>4,314</b>
法人所得税費用	△99	478	853	275
減価償却費及び償却費	5,597	1,416	1,429	5,610
純支払利息	1,290	307	299	1,282
<b>EBITDA</b>	<b>10,549</b>	<b>3,026</b>	<b>3,959</b>	<b>11,482</b>
減損損失	255	75	1	180
その他の営業収益・費用 (減価償却費、償却費及びその他の非資金項目を除く)	△745	△244	126	△375
金融収益・費用 (純支払利息を除く)	141	△35	△47	129
持分法による投資損益	△1	98	4	△95
その他の調整項目	1,314	357	△1,086	△129
COVID-19に係る非中核費用	140	—	34	174
日本の糖尿病治療剤ポートフォリオ売却	—	—	△1,314	△1,314
Shire社の買収で取得した棚卸資産の公正価値調整による利益への影響	794	265	108	637
Shire社買収に係る費用	19	0	—	19
その他の費用*2	361	92	87	356
<b>調整後EBITDA</b>	<b>11,513</b>	<b>3,276</b>	<b>2,956</b>	<b>11,192</b>
売却した製品に係るEBITDA*3				△622
<b>調整後EBITDA (LTM)</b>				<b>10,571</b>

\*1 2021年6月30日までの過去12ヶ月 (LTM: Last Twelve Months)、2020年度通期から2020年度第1四半期を控除し、2021年度第1四半期を加算して算出しています。

\*2 株式報酬にかかる非資金性の費用とShire社買収後に優先順位を下げたパイプラインに係る非定常的なプログラム中止コストの調整を含みます。

\*3 調整後EBITDAのLTM算出にあたり、売却した製品に係るEBITDAを調整しています。

純有利子負債/調整後EBITDA

2021年度第1四半期

純有利子負債/調整後EBITDA倍率		キャッシュの純増減			
(億円)	2021年度 第1四半期 (6月末)	(億円)	2020年度 第1四半期 (4-6月)	2021年度 第1四半期 (4-6月)	対前年同期
現金および現金同等物*1	4,854	営業活動によるキャッシュ・フロー	1,459	1,669	+210 +14.4%
貸借対照表上の負債簿価	△44,059	有形固定資産の取得による支出	△231	△298	
ハイブリッド社債の50%資本性認定	2,500	有形固定資産の売却による収入	0	1	
為替調整*2	1,329	無形資産の取得による支出	△173	△125	
有利子負債*3	△40,230	投資の取得による支出	△35	△33	
<b>純有利子負債</b>	<b>△35,376</b>	投資の売却、償還による収入	444	5	
		事業取得による支出	—	△275	
<b>純有利子負債/調整後EBITDA倍率</b>	<b>3.3 x</b>	事業売却による収入	—	21	
		短期借入金及びコマーシャルペーパーの純増減額	△100	0	
<b>調整後EBITDA</b>	<b>10,571</b>	長期借入金の返済による支出	△100	△2,201	
		社債の償還による支出	—	△228	
		利息の支払額	△302	△232	
		配当金の支払額	△1,331	△1,320	
		その他	△93	△129	
		現金の増減額 (△は減少)	△462	△3,146	△2,684 △580.4%

\*1 各期末日の翌日から1年以内に償還期限の到来する短期投資を含み、ワクチン運営のための制限付き預り金を除く。

\*2 期中平均レートで換算される調整後EBITDA計算と整合させるため、期初から期中残存する外貨建て負債を期中平均レートを用いて換算している。報告期間中に計上した新規の外貨建て負債および償還した既存の外貨建て負債については当該日の対応するスポットレートを用いて換算している。

\*3 流動・非流動の社債および借入金。2019年6月に5,000億円のハイブリッド債を発行、格付け機関から認定された50%の資本性である2,500億円を負債から控除。また、負債簿価への資金性および非資金性調整を含む。非資金性の調整には、負債償却と為替影響を含む。



## 2020年度通期

## 純有利子負債/調整後EBITDA倍率

(億円)	2020年度
現金および現金同等物*1	7,907
貸借対照表上の負債簿価	△46,354
ハイブリッド社債の50%資本性認定 為替調整*2	2,500 1,652
有利子負債*3	△42,202
<b>純有利子負債</b>	<b>△34,294</b>
<b>純有利子負債/調整後EBITDA倍率</b>	<b>3.2 x</b>
<b>調整後EBITDA</b>	<b>10,835</b>

## キャッシュの純増減

(億円)	2019年度	2020年度	対前年度	
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,698	10,109	+3,412	+50.9%
有形固定資産の取得による支出	△1,271	△1,112		
有形固定資産の売却による収入	126	465		
無形資産の取得による支出	△906	△1,253		
投資の取得による支出	△76	△126		
投資の売却、償還による収入	494	746		
事業取得による支出	△49	—		
事業売却による収入	4,615	5,304		
短期借入金及びコマーシャルペーパーの純増減額	△3,512	△190		
長期借入金の返済による支出	△1,374	△7,925		
社債の発行による収入	4,962	11,795		
社債の償還による支出	△5,636	△8,592		
利息の支払額	△1,272	△1,073		
配当金の支払額	△2,826	△2,834		
その他	△406	△853		
現金の増減額 (△は減少)	△433	3,161	+3,594	—

\*1 各期末日の翌日から1年以内に償還期限の到来する短期投資を含み、ワクチン運営のための制限付き預り金を除く。

\*2 調整後EBITDA計算と整合させるため、外貨建て負債の換算に用いる為替レートを月末レートから平均レートに変更して調整している。

\*3 流動・非流動の社債および借入金。2019年6月に5,000億円のハイブリッド債を発行、格付け機関から認定された50%の資本性である2,500億円を負債から控除。また、負債簿価への資金性および非資金性調整を含む。非資金性の調整には、負債償却と為替影響を含む。

2021年度予測 - 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整					Core
		無形資産 に係る 償却費	無形資産 に係る 減損損失	その他の 営業収益/ 費用	日本の 糖尿病治療剤 ポートフォリオ 売却	その他	
<b>売上収益</b>	<b>33,700</b>				<b>△1,330</b>		<b>32,370</b>
売上原価					30	350	
<b>売上総利益</b>					<b>△1,300</b>	<b>350</b>	
販売費及び一般管理費						40	
製品に係る無形資産償却費	△4,060	4,060					—
製品に係る無形資産減損損失	△500		500				—
その他の営業収益	230			△230			—
その他の営業費用	△1,000			1,000			—
<b>営業利益</b>	<b>4,880</b>	<b>4,060</b>	<b>500</b>	<b>770</b>	<b>△1,300</b>	<b>390</b>	<b>9,300</b>

## 留意事項

本留意事項において、「報告書」とは、本資料（添付資料及び補足資料を含みます。）において武田薬品工業株式会社（以下、「武田薬品」）によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本報告書（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます。）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本報告書により株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法に基づく登録又は登録免除の要件に従い行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本報告書は、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本報告書において、「武田薬品」という用語は、武田薬品およびその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。同様に、「当社（we, us および our）」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあります。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあります。

本資料に記載されている製品名は、武田薬品または各所有者の商標または登録商標です。

## 将来に関する見通し情報

本報告書及び本報告書に関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets)」、「計画する (plans)」、「信じる (believes)」、「望む (hopes)」、「継続する (continues)」、「期待する (expects)」、「めざす (aims)」、「意図する (intends)」、「確実にする (ensures)」、「だろう (will)」、「かもしれない (may)」、「すべきであろう (should)」、「であろう (would)」、「することができた (could)」、「予想される (anticipates)」、「見込む (estimates)」、「予想する (projects)」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。これら将来見通し情報は、多くの重要な要因に関する前提に基づいており、実際の業績は、将来見通し情報において明示又は暗示された将来の業績とは大きく異なる可能性があります。その重要な要因には、日本及び米国の一般的な経済条件を含む当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、世界的な医療制度改革を含む関連法規の変更、臨床的成功及び規制当局による判断とその時期の不確実性を含む新製品開発に内在する困難、新製品および既存製品の商業的成功の不確実性、製造における困難又は遅延、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念、新規コロナウイルス・パンデミックのような健康危機が、当社が事業を行う国の政府を含む当社とその顧客及び供給業者又は当社事業の他の側面に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI（買収後の統合活動）の時期及び影響、武田薬品の事業にとっての非中核資産を売却する能力及びかかる資産売却のタイミング、当社のウェブサイト(<https://www.takeda.com/investors/reports/sec-filings/>)又は[www.sec.gov](http://www.sec.gov) において閲覧可能な米国証券取引委員会に提出したForm 20-Fによる最新の年次報告書及び当社の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本報告書に含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本報告書における武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果又はその公表を示すものではなく、その予測、予想、保証又は見積もりではありません。

## 国際会計基準に準拠しない財務指標

本報告書には、国際会計基準（IFRS）に準拠しない財務指標及び目標値が含まれています。当社役員は業績評価並びに経営及び投資判断を、IFRS 及び本報告書に含まれる IFRS 以外の指標に基づき行っています。IFRS に準拠しない財務指標においては、IFRS に基づく場合には含まれることとなる一定の利益及びコストを除外しております。IFRS に準拠しない財務指標を提供することで、当社役員は、投資家の皆様に対し、当社の経営状況、主要な業績及び動向の更なる分析のための付加的な情報を提供したいと考えております。IFRS に準拠しない財務指標は、IFRS に準拠するものではなく、付加的なものであり、また、IFRS に準拠する財務指標に代替するものではありません。投資家の皆様におかれましては、IFRS に準拠しない財務指標につき、本報告書の補足資料 1～3 に記載した、これらに最も良く対応する IFRS 準拠財務指標との照合を行っていただきますようお願い申し上げます。

## 医療情報

本報告書には、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

## 財務情報

当社の財務諸表は、国際会計基準（IFRS）に基づき作成しております。